

2024 年度 授業計画(シラバス)

学 科		柔道整復スポーツトレーナー		科 目 区 分	その他	授業の方法	講義
科 目 名		スポーツ特論		必修/選択の別	必修	授業時数(単位数)	30 (1) 時間(単位)
対 象 学 年		2年生		学期及び曜時限	前期	教室名	301教室
担 当 教 員		生田晶子	実務経験と その関連資格	健康運動指導士, NSCA-CPT			
《授業科目における学習内容》							
スポーツ現場で必要なコーチングなどの知識や技術を学び理解する。							
《成績評価の方法と基準》							
素点 70% 出席評価点 20% 平常評価点 10%							
《使用教材(教科書)及び参考図書》							
Reference Book (日本スポーツ協会)							
《授業外における学習方法》							
インターネットや新聞紙面等において、授業に関連する記事や情報を意識的に見るようにする。							
《履修に当たっての留意点》							
授業の 方法		内 容			使用教材		授業以外での準備学習 の具体的な内容
第 1 回	講 義 形 式	授業を 通じての 到達目標	スポーツコーチについて知ることが出来るようになる。		Reference Book (日本スポーツ協 会)	予めテキストに目を通し ておき、不明なワードに 対してはインターネット 等にて確認しておく	
		各コマに おける 授業予定	【コーチングとは】① コーチングとコーチの定義／ぐっとプレーヤーとグッドコーチ				
第 2 回	講 義 形 式	授業を 通じての 到達目標	プレイヤードセンタードについて理解することが出来るようになる。		Reference Book (日本スポーツ協 会)	予めテキストに目を通し ておき、不明なワードに 対してはインターネット 等にて確認しておく	
		各コマに おける 授業予定	【コーチングとは】② プレイヤードセンタード				
第 3 回	講 義 形 式	授業を 通じての 到達目標	コーチに求められる役割とスキルについて理解することが出来るようになる。		Reference Book (日本スポーツ協 会)	予めテキストに目を通し ておき、不明なワードに 対してはインターネット 等にて確認しておく	
		各コマに おける 授業予定	【コーチに求められる役割】 【コーチに求められる知識とスキル】				
第 4 回	講 義 形 式	授業を 通じての 到達目標	コミュニケーションスキルについて理解することが出来るようになる。		Reference Book (日本スポーツ協 会)	予めテキストに目を通し ておき、不明なワードに 対してはインターネット 等にて確認しておく	
		各コマに おける 授業予定	【対他者力】① コミュニケーションスキル				
第 5 回	講 義 形 式	授業を 通じての 到達目標	ファシリテーションスキルについて、理解することが出来るようになる。		Reference Book (日本スポーツ協 会)	予めテキストに目を通し ておき、不明なワードに 対してはインターネット 等にて確認しておく	
		各コマに おける 授業予定	【対他者力】② ファシリテーションスキル				

授業の方法		内 容		使用教材	授業以外での準備学習の具体的な内容
第6回	講義形式	授業を通じての到達目標	対自己力について、理解することが出来るようになる。	Reference Book (日本スポーツ協会)	予めテキストに目を通しておき、不明なワードに対してはインターネット等にて確認しておく
		各コマにおける授業予定	【対自己力】		
第7回	講義形式	授業を通じての到達目標	スポーツの意義と価値について、更に理解を深めることが出来るようになる。	Reference Book (日本スポーツ協会)	予めテキストに目を通しておき、不明なワードに対してはインターネット等にて確認しておく
		各コマにおける授業予定	【スポーツの意義と価値】① 社会の中のスポーツの価値		
第8回	実習形式	授業を通じての到達目標	スポーツの意義と価値について、理解することが出来るようになる。	Reference Book (日本スポーツ協会)	予めテキストに目を通しておき、不明なワードに対してはインターネット等にて確認しておく
		各コマにおける授業予定	【スポーツの意義と価値】② スポーツの文化的特徴		
第9回	実習形式	授業を通じての到達目標	コーチングについてまとめ、より理解を深める。	Reference Book (日本スポーツ協会)	予めテキストに目を通しておき、不明なワードに対してはインターネット等にて確認しておく
		各コマにおける授業予定	コーチングを理解する①		
第10回	講義形式	授業を通じての到達目標	スポーツ権と自治ガバナンス・コンプライアンスについて、理解することが出来るようになる。	Reference Book (日本スポーツ協会)	予めテキストに目を通しておき、不明なワードに対してはインターネット等にて確認しておく
		各コマにおける授業予定	【スポーツの価値を守るスポーツ権】 【スポーツの自治ガバナンスとコンプライアンス】		
第11回	講義形式	授業を通じての到達目標	暴力・ハラスメント、インテグリティについて、更に理解を深めることが出来るようになる。	Reference Book (日本スポーツ協会)	予めテキストに目を通しておき、不明なワードに対してはインターネット等にて確認しておく
		各コマにおける授業予定	【暴力・ハラスメントの根絶】 【スポーツのインテグリティ】		
第12回	講義形式	授業を通じての到達目標	コーチングについてまとめ、より理解を深める。	Reference Book (日本スポーツ協会)	予めテキストに目を通しておき、不明なワードに対してはインターネット等にて確認しておく
		各コマにおける授業予定	コーチングを理解する②		
第13回	講義形式	授業を通じての到達目標	事故や法的責任、倫理について、理解することが出来るようになる。	Reference Book (日本スポーツ協会)	予めテキストに目を通しておき、不明なワードに対してはインターネット等にて確認しておく
		各コマにおける授業予定	【スポーツ事故におけるスポーツ指導者の法的責任】 【スポーツ仲裁】【スポーツ倫理】【時代をリードするコーチング】		
第14回	講義形式	授業を通じての到達目標	コーチングについてまとめ、より理解を深める。	Reference Book (日本スポーツ協会)	予めテキストに目を通しておき、不明なワードに対してはインターネット等にて確認しておく
		各コマにおける授業予定	コーチングを理解する③		
第15回	講義形式	授業を通じての到達目標	学んだ事を総復習し、コーチングとは何かを理解する。	Reference Book (日本スポーツ協会)	今までの授業内容をまとめる
		各コマにおける授業予定	総まとめ		

2024 年度 授業計画(シラバス)

学 科		柔道整復スポーツトレーナー		科 目 区 分	専門基礎分野	授業の方法	講義
科 目 名		運動学		必修/選択の別	必修	授業時数(単位数)	30 (2) 時間(単位)
対 象 学 年		2年生		学期及び曜時限	前期 木・2限	教室名	301教室
担 当 教 員		新庄 文明	実務経験とその関連資格	前長崎大学大学院教授(公衆衛生学)、ロンドン大学キングスカレッジ客員助教授、元大阪大学医学部講師(社会系医学)、医学博士、歯科医師			
《授業科目における学習内容》							
運動学は人間の身体運動を科学的に研究する学問分野である。運動障害をもつ患者を診て治療を行う上で必要な、身体機能と構と、運動機能の障害による異常運動についての知識など、実際の臨床と直結した科学である。							
《成績評価の方法と基準》							
定期試験 100%							
《使用教材(教科書)及び参考図書》							
全国柔道整復学校協会監修 『運動学』 改訂第3版(医歯薬出版)							
《授業外における学習方法》							
これまでの基礎医学、とりわけ解剖学や生理学の知識が、運動学を学ぶにあたって不可欠であるので、その復習を兼ね、従来の学習内容を整理、理解しておくことが必須である。							
《履修に当たっての留意点》							
運動機能の障害を扱ううえで必要な、正常運動と異常運動の理解、運動分析にもとづく評価など、医学における診断にあたる総合的な判断ができる力を身に着ける。							
授業の方法		内 容			使用教材		授業以外での準備学習の具体的な内容
第1回	講義形式	授業を通じての到達目標	運動学の領域、運動の捉え方、運動の表示について理解する		教科書『運動学』および配布する補助資料	配布資料のうち学習小テストの内容を復習・確認する。	
		各コマにおける授業予定	運動学総論:運動学の目的と範囲				
第2回	講義形式	授業を通じての到達目標	身体運動に関する力、運動の法則に力学的エネルギーの考え方について理解する		教科書『運動学』および配布する補助資料	配布資料のうち学習小テストの内容を復習・確認する。	
		各コマにおける授業予定	身体運動と力学				
第3回	講義形式	授業を通じての到達目標	骨および関節・骨格筋の構造と機能を理解する		教科書『運動学』および配布する補助資料		
		各コマにおける授業予定	運動器の構造と機能				
第4回	講義形式	授業を通じての到達目標	神経細胞および中枢・末梢氏名の働きを理解する		教科書『運動学』および配布する補助資料	配布資料のうち学習小テストの内容を復習・確認する。	
		各コマにおける授業予定	神経の構造と機能				
第5回	講義形式	授業を通じての到達目標	運動にかかわる感覚と知覚、運動の制御について理解する		教科書『運動学』および配布する補助資料	配布資料のうち学習小テストの内容を復習・確認する。	
		各コマにおける授業予定	運動感覚				
授業の方法		内 容			使用教材		授業以外での準備学習の具体的な内容

第6回	講義形式	授業を通じての到達目標	反射のしくみ、連合運動と共同運動、ならびに随意運動の発現とそのプログラムについて理解する	教科書『運動学』および配布する補助資料	配布資料のうち学習小テストの内容を復習・確認する。
		各コマにおける授業予定	反射と随意運動		
第7回	講義形式	授業を通じての到達目標	姿勢の分類、重心ならびに立位姿勢の安定性とその制御について理解する	教科書『運動学』および配布する補助資料	配布資料のうち学習小テストの内容を復習・確認する。
		各コマにおける授業予定	姿勢		
第8回	講義形式	授業を通じての到達目標	乳幼児の運動発達ならびに神経組織の成熟について理解する	教科書『運動学』および配布する補助資料	配布資料のうち学習小テストの内容を復習・確認する。
		各コマにおける授業予定	運動発達		
第9回	講義形式	授業を通じての到達目標	運動技能と運動能力、運動の動機付け、学習の転移・記憶について理解する	教科書『運動学』および配布する補助資料	配布資料のうち学習小テストの内容を復習・確認する。
		各コマにおける授業予定	運動学習		
第10回	講義形式	授業を通じての到達目標	上肢体と肩関節の運動について理解する	教科書『運動学』および配布する補助資料	配布資料のうち学習小テストの内容を復習・確認する。
		各コマにおける授業予定	四肢と体幹の運動 ①		
第11回	講義形式	授業を通じての到達目標	肘関節、前腕、手関節と手の運動について理解する	教科書『運動学』および配布する補助資料	配布資料のうち学習小テストの内容を復習・確認する。
		各コマにおける授業予定	四肢と体幹の運動 ②		
第12回	講義形式	授業を通じての到達目標	股関節、膝関節、足関節と足部の運動について理解する	教科書『運動学』および配布する補助資料	配布資料のうち学習小テストの内容を復習・確認する。
		各コマにおける授業予定	四肢と体幹の運動 ③		
第13回	講義形式	授業を通じての到達目標	体幹と脊柱、頸椎・胸椎の運動について理解する	教科書『運動学』および配布する補助資料	配布資料のうち学習小テストの内容を復習・確認する。
		各コマにおける授業予定	四肢と体幹の運動 ④		
第14回	講義形式	授業を通じての到達目標	腰椎、仙椎、骨盤および頭部・顔面の運動について理解する	教科書『運動学』および配布する補助資料	配布資料のうち学習小テストの内容を復習・確認する。
		各コマにおける授業予定	四肢と体幹の運動 ⑤		
第15回	講義形式	授業を通じての到達目標	後期の課題を整理し、理解度を確認する	教科書『運動学』および配布する補助資料	配布資料のうち学習小テストの内容を復習・確認する。
		各コマにおける授業予定	まとめ 試験		

2024 年度 授業計画(シラバス)

学 科	柔道整復スポーツトレーナー		科 目 区 分	基礎分野	授業の方法	講義
科 目 名	栄養学		必修/選択の別	選択	授業時数(単位数)	30 (2) 時間(単位)
対 象 学 年	2年生		学期及び曜時限	後期 火(4)	教室名	301
担 当 教 員	平田 佐千子	実務経験とその関連資格	病院勤務経験、専門学校教員経験 管理栄養士免許、フードコーディネーター			
《授業科目における学習内容》						
栄養学の基礎的な事項とスポーツ栄養の基本的な事項を習得する。						
《成績評価の方法と基準》						
定期試験 70% 出席 20% 授業態度・参加度 10%						
《使用教材(教科書)及び参考図書》						
配布資料、公認スポーツ指導者養成テキスト・ワークブック共通科目Ⅰ及びⅢ						
《授業外における学習方法》						
配布資料の復習、教科書の予習・復習、用語の確認						
《履修に当たっての留意点》						
国家試験に直結する教科ではないが、スポーツ分野では栄養知識は必要となり、身体を扱う以上、知っておく知識はあるため、基礎的な内容は習得する必要がある。						
授業の方法		内 容			使用教材	授業以外での準備学習の具体的な内容
第1回	講義形式	授業を通じての到達目標	栄養と健康、栄養の概念		配布資料、公認スポーツ指導者養成テキスト・ワークブック共通科目Ⅰ	用語の確認
		各コマにおける授業予定	食事と健康、日本の食生活、栄養素の種類と機能			
第2回	講義形式	授業を通じての到達目標	炭水化物の基本的事項とスポーツとの関わり		配布資料	用語の確認 前回講義の復習
		各コマにおける授業予定	炭水化物の種類とその機能、糖質摂取とグリコーゲン回復			
第3回	講義形式	授業を通じての到達目標	脂質、たんぱく質の基本的事項とスポーツとの関わり		配布資料	用語の確認 前回講義の復習
		各コマにおける授業予定	脂質の種類とその機能、たんぱく質の種類とその機能、摂取量について、筋肉作りについて			
第4回	講義形式	授業を通じての到達目標	水溶性ビタミンの基本的事項		配布資料	用語の確認 前回講義の復習
		各コマにおける授業予定	水溶性ビタミンとその機能、欠乏症及び過剰症について			
第5回	講義形式	授業を通じての到達目標	脂溶性ビタミンの基本的事項とスポーツとの関わり		配布資料	用語の確認 前回講義の復習
		各コマにおける授業予定	脂溶性ビタミンとその機能、欠乏症及び過剰症について、スポーツにおけるビタミン摂取について			

授業の方法		内 容		使用教材	授業以外での準備学習 の具体的な内容
第6回	講義形式	授業を通じての到達目標	ミネラルの基本的事項	配布資料	用語の確認 前回講義の復習
		各コマにおける授業予定	多量ミネラルの種類とその機能および欠乏症等について		
第7回	講義形式	授業を通じての到達目標	ミネラルの基本的事項とスポーツとの関わり	配布資料	用語の確認 前回講義の復習
		各コマにおける授業予定	微量ミネラルの種類とその機能および欠乏症等について、鉄欠乏性貧血とスポーツ、骨作り		
第8回	講義形式	授業を通じての到達目標	水分とスポーツ、機能性成分	配布資料	用語の確認 前回講義の復習
		各コマにおける授業予定	水分の役割、体温調節、水分補給、スポーツドリンク、機能性成分		
第9回	講義形式	授業を通じての到達目標	栄養素の消化と吸収、代謝	配布資料、公認スポーツ指導者養成テキスト・ワークブック共通科目Ⅰ	用語の確認 前回講義の復習
		各コマにおける授業予定	栄養素の消化、各消化器官での消化		
第10回	講義形式	授業を通じての到達目標	栄養素の消化と吸収、代謝	配布資料	用語の確認 前回講義の復習
		各コマにおける授業予定	栄養素の吸収及び代謝		
第11回	講義形式	授業を通じての到達目標	エネルギー代謝と身体活動	配布資料	用語の確認 前回講義の復習
		各コマにおける授業予定	エネルギー代謝、基礎代謝、エネルギー消費量		
第12回	講義形式	授業を通じての到達目標	日本人の食事摂取基準	配布資料	用語の確認 前回講義の復習
		各コマにおける授業予定	日本人の食事摂取基準、エネルギー指標、栄養素指標		
第13回	講義形式	授業を通じての到達目標	食事設計	配布資料	用語の確認 前回講義の復習
		各コマにおける授業予定	食事設計、スポーツ選手の食事計画		
第14回	講義形式	授業を通じての到達目標	スポーツ選手における食事設計	配布資料	用語の確認 前回講義の復習
		各コマにおける授業予定	期分けによる食事(試合前、試合当日、試合後、合宿期、国内外の遠征、オフ期)、栄養教育		
第15回	講義形式	授業を通じての到達目標	まとめ	配布資料 復習プリント	講義の総復習
		各コマにおける授業予定	基本的事項の振り返りと確認、復習プリント		

2024 年度 授業計画(シラバス)

学 科		柔道整復スポーツトレーナー学科		科 目 区 分	専門分野	授業の方法	実習
科 目 名		柔整基礎実技Ⅰ		必修/選択の別	必修	授業時数(単位数)	60 (2) 時間(単位)
対 象 学 年		2年生		学期及び曜時限	前期 金1・2限目	教室名	実技実習室2
担 当 教 員		奥出 一貴	実務経験と その関連資格	柔道整復師、柔道整復師専科教員免許、NSCA-CPT、赤十字救急法指導員			
《授業科目における学習内容》							
柔道整復基礎Ⅲ及び、柔道整復各論Ⅰ及びⅡで学んだ上肢の損傷に対する評価法・整復法・固定法・後療法についての 実技を学ぶとともに座学にて上肢の損傷の復習を行う。							
《成績評価の方法と基準》							
実技試験 100%にて評価する。							
《使用教材(教科書)及び参考図書》							
柔道整復学 理論編 改訂第7版 (南江堂) 柔道整復学 実技編 改訂第2版 (南江堂) カラー写真で学ぶ 骨・関節の機能解剖 (医歯薬出版株式会社) 配布プリント							
《授業外における学習方法》							
教科書及び配布資料をよく読み、特に復習に力を入れること。実技は繰り返し練習をしなければ身につかないため、学生 同士での練習が不可欠である。							
《履修に当たっての留意点》							
柔道整復基礎Ⅲ及び、柔道整復各論Ⅰ及びⅡの内容をしっかりと復習しておく必要がある。							
授業の 方法		内 容			使用教材		授業以外での準備学習 の具体的な内容
第 1 回	講義 演習 形式	授業を 通じての 到達目標	授業の概説の説明を行い授業内容の理解と、柔道整復学各 論の復習し理解を深めることができるようになる。		柔道整復学 理 論編 改訂第7 版 配布プリント	基本包帯法を復習して おく。	
		各コマに おける 授業予定	オリエンテーション 上肢の損傷①				
第 2 回	講義 演習 形式	授業を 通じての 到達目標	柔道整復学復習し理解を深めることができるようになる。		柔道整復学 理 論編 改訂第7 版 配布プリント	基本包帯法を復習して おく。	
		各コマに おける 授業予定	上肢の損傷②				
第 3 回	講義 演習 形式	授業を 通じての 到達目標	定型的鎖骨骨折について復習を行い再度鎖骨骨折について 理解することができるようになる。		柔道整復学 理 論編 改訂第7 版 配布プリント	定型的鎖骨骨折につい て復習しておく。	
		各コマに おける 授業予定	定型的鎖骨骨折①				
第 4 回	講義 演習 形式	授業を 通じての 到達目標	定型的鎖骨骨折の整復、固定法について理解することができ るようになる。		柔道整復学 理 論編 改訂第7 版 配布プリント	定型的鎖骨骨折につい て復習しておく。	
		各コマに おける 授業予定	定型的鎖骨骨折②				
第 5 回	講義 演習 形式	授業を 通じての 到達目標	上腕骨外科頸外転型骨折について復習を行い再度上腕骨外 科頸外転型骨折について理解することができるようになる。		柔道整復学 理 論編 改訂第7 版 配布プリント	上腕骨外科頸外転型骨 折について復習してお く。	
		各コマに おける 授業予定	上腕骨外科頸外転型骨折①				

授業の方法		内 容		使用教材	授業以外での準備学習の具体的な内容
第6回	講義 演習形式	授業を通じての到達目標	上腕骨外科頸外転型骨折について整復、固定法について理解することができるようになる。	柔道整復学 理論編 改訂第7版 配布プリント	上腕骨外科頸外転型骨折について復習しておく。
		各コマにおける授業予定	上腕骨外科頸外転型骨折②		
第7回	講義 演習形式	授業を通じての到達目標	上腕骨骨幹部骨折の復習を行い再度上腕骨骨幹部骨折について理解することができるようになる。	柔道整復学 理論編 改訂第7版 配布プリント	上腕骨骨幹部骨折について復習しておく。
		各コマにおける授業予定	上腕骨骨幹部骨折①		
第8回	講義 演習形式	授業を通じての到達目標	上腕骨骨幹部骨折の整復、固定法について理解することができるようになる。	柔道整復学 理論編 改訂第7版 配布プリント	上腕骨骨幹部骨折について復習しておく。
		各コマにおける授業予定	上腕骨骨幹部骨折②		
第9回	講義 演習形式	授業を通じての到達目標	肩鎖関節脱臼について復習を行い再度肩鎖関節脱臼について理解することができるようになる。	柔道整復学 理論編 改訂第7版 配布プリント	肩鎖関節脱臼について復習しておく。
		各コマにおける授業予定	肩鎖関節脱臼①		
第10回	講義 演習形式	授業を通じての到達目標	肩鎖関節脱臼の整復、固定法について理解することができるようになる。	柔道整復学 理論編 改訂第7版 配布プリント	肩鎖関節脱臼について復習しておく。
		各コマにおける授業予定	肩鎖関節脱臼②		
第11回	講義 演習形式	授業を通じての到達目標	肩関節烏口下脱臼について復習を行い再度肩関節烏口下脱臼について理解することができるようになる。	柔道整復学 理論編 改訂第7版 配布プリント	肩関節烏口下脱臼について復習しておく。
		各コマにおける授業予定	肩関節烏口下脱臼①		
第12回	講義 演習形式	授業を通じての到達目標	肩関節烏口下脱臼の整復、固定法について理解することができるようになる。	柔道整復学 理論編 改訂第7版 配布プリント	肩関節烏口下脱臼について復習しておく。
		各コマにおける授業予定	肩関節烏口下脱臼②		
第13回	講義 演習形式	授業を通じての到達目標	肘関節脱臼について復習を行い再度肘関節脱臼について理解することができるようになる。	柔道整復学 理論編 改訂第7版 配布プリント	肘関節脱臼について復習しておく。
		各コマにおける授業予定	肘関節脱臼①		
第14回	講義 演習形式	授業を通じての到達目標	肘関節脱臼の整復、固定法について理解することができるようになる。	柔道整復学 理論編 改訂第7版 配布プリント	肘関節脱臼について復習しておく。
		各コマにおける授業予定	肘関節脱臼②		
第15回	講義 演習形式	授業を通じての到達目標	腱板損傷について復習を行い再度腱板損傷について理解することができるようになる。	柔道整復学 理論編 改訂第7版 配布プリント	腱板損傷について復習しておく。
		各コマにおける授業予定	腱板損傷①		

2024 年度 授業計画(シラバス)

学 科		柔道整復スポーツトレーナー		科 目 区 分	専門分野	授業の方法	講義
科 目 名		柔道整復学・各論Ⅰ		必修/選択の別	必修	授業時数(単位数)	30 (2) 時間(単位)
対 象 学 年		2年生		学期及び曜時限	前期 木・1限	教室名	301教室
担 当 教 員		奥出 一 貴	実務経験と その関連資格	柔道整復師免許 柔道整復専科教員資格			
《授業科目における学習内容》							
柔道整復学の上肢の骨折脱臼について学ぶ							
《成績評価の方法と基準》							
定期試験100%							
《使用教材(教科書)及び参考図書》							
柔道整復学・理論編改訂第7版、柔道整復学・実技編改訂第2版、解剖学改訂第2版、配布プリント							
《授業外における学習方法》							
教科書に沿って本読み、配布プリントの復習、まとめ							
《履修に当たっての留意点》							
基礎となる解剖学を理解すること、本読みを行い教科書の記載内容を理解すること							
授業の 方法		内 容			使用教材	授業以外での準備学習 の具体的な内容	
第1回	講義 形式	授業を 通じての 到達目標	橈・尺両骨骨幹部骨折について理解することができるようになる。		柔道整復学・理 論編改訂第7 版、柔道整復学・ 実技編改訂第2 版、解剖学改訂 第2版	授業範囲本読み予習復 習	
		各コマに おける 授業予定	橈・尺両骨骨幹部骨折				
第2回	講義 形式	授業を 通じての 到達目標	コーレス骨折・スミス骨折について理解することができるようになる。		柔道整復学・理 論編改訂第7 版、柔道整復学・ 実技編改訂第2 版、解剖学改訂 第2版	授業範囲本読み予習復 習	
		各コマに おける 授業予定	橈骨遠位端部骨折(コーレス骨折・スミス骨折)				
第3回	講義 形式	授業を 通じての 到達目標	橈骨遠位端部骨折について理解することができるようになる。		柔道整復学・理 論編改訂第7 版、柔道整復学・ 実技編改訂第2 版、解剖学改訂 第2版	授業範囲本読み予習復 習	
		各コマに おける 授業予定	橈骨遠位端部骨折(バートン骨折・ショウファー骨折、橈骨遠位 端骨端線離開)				
第4回	講義 形式	授業を 通じての 到達目標	手関節部の骨折について理解することができるようになる。		柔道整復学・理 論編改訂第7 版、柔道整復学・ 実技編改訂第2 版、解剖学改訂 第2版	授業範囲本読み予習復 習	
		各コマに おける 授業予定	手根骨部の骨折(舟状骨骨折、三角骨骨折)				
第5回	講義 形式	授業を 通じての 到達目標	手関節部の骨折について理解することができるようになる。		柔道整復学・理 論編改訂第7 版、柔道整復学・ 実技編改訂第2 版、解剖学改訂 第2版	授業範囲本読み予習復 習	
		各コマに おける 授業予定	手根骨部の骨折(有鈎骨骨折、豆状骨骨折)				

授業の方法		内 容		使用教材	授業以外での準備学習 の具体的な内容
第6回	講義形式	授業を通じての到達目標	中手骨部の骨折について理解することができるようになる。	柔道整復学・理論編改訂第7版、柔道整復学・実技編改訂第2版、解剖学改訂第2版	授業範囲本読み予習復習
		各コマにおける授業予定	中手骨部の骨折(中手骨骨頭骨折、中手骨頸部骨折)		
第7回	講義形式	授業を通じての到達目標	中手骨部の骨折について理解することができるようになる。	柔道整復学・理論編改訂第7版、柔道整復学・実技編改訂第2版、解剖学改訂第2版	授業範囲本読み予習復習
		各コマにおける授業予定	中手骨部の骨折(中手骨骨幹部骨折、ベネット骨折、逆ベネット骨折)		
第8回	講義形式	授業を通じての到達目標	基節骨・中節骨骨折について理解することができるようになる。	柔道整復学・理論編改訂第7版、柔道整復学・実技編改訂第2版、解剖学改訂第2版	授業範囲本読み予習復習
		各コマにおける授業予定	基節骨骨折、中節骨骨折		
第9回	講義形式	授業を通じての到達目標	末節骨骨折、マレットフィンガーについて理解することができるようになる。	柔道整復学・理論編改訂第7版、柔道整復学・実技編改訂第2版、解剖学改訂第2版	授業範囲本読み予習復習
		各コマにおける授業予定	末節骨骨折、マレットフィンガー		
第10回	講義形式	授業を通じての到達目標	遠位橈尺関節脱臼、橈骨手根関節脱臼について理解することができるようになる。	柔道整復学・理論編改訂第7版、柔道整復学・実技編改訂第2版、解剖学改訂第2版	授業範囲本読み予習復習
		各コマにおける授業予定	遠位橈尺関節脱臼、橈骨手根関節脱臼		
第11回	講義形式	授業を通じての到達目標	月状骨脱臼および月状骨周囲脱臼について理解することができるようになる。	柔道整復学・理論編改訂第7版、柔道整復学・実技編改訂第2版、解剖学改訂第2版	授業範囲本読み予習復習
		各コマにおける授業予定	月状骨脱臼および月状骨周囲脱臼		
第12回	講義形式	授業を通じての到達目標	中手指節関節、指節間関節の脱臼について理解する	柔道整復学・理論編改訂第7版、柔道整復学・実技編改訂第2版、解剖学改訂第2版	授業範囲本読み予習復習
		各コマにおける授業予定	手根中手関節脱臼、第一指中手指節関節脱臼		
第13回	講義形式	授業を通じての到達目標	第一指以外の中手指節関節脱臼、近位指節関節脱臼について理解することができる。	柔道整復学・理論編改訂第7版、柔道整復学・実技編改訂第2版、解剖学改訂第2版	授業範囲本読み予習復習
		各コマにおける授業予定	第一指以外の中手指節関節脱臼、近位指節関節脱臼		
第14回	講義形式	授業を通じての到達目標	近位指節関節脱臼、遠位指節間関節脱臼について理解することができるようになる。	柔道整復学・理論編改訂第7版、柔道整復学・実技編改訂第2版、解剖学改訂第2版	授業範囲本読み予習復習
		各コマにおける授業予定	近位指節関節脱臼、遠位指節間関節脱臼		
第15回	講義形式	授業を通じての到達目標	総復習、苦手なポイント等理解することができるようになる。	柔道整復学・理論編改訂第7版、柔道整復学・実技編改訂第2版、解剖学改訂第2版	授業範囲本読み予習復習
		各コマにおける授業予定	まとめ		

2024 年度 授業計画(シラバス)

学 科		柔道整復スポーツトレーナー学科		科 目 区 分	専門分野	授業の方法	講義
科 目 名		柔道整復学・各論Ⅱ		必修/選択の別	必修	授業時数(単位数)	30 (2) 時間(単位)
対 象 学 年		2年生		学期及び曜時限	前期 月4	教室名	302
担 当 教 員		松澤 伸也	実務経験と その関連資格	柔道整復師 専科教員資格			
《授業科目における学習内容》							
四肢の損傷はスポーツ傷害により発生する事が多く、膝関節や足関節はスポーツ傷害に限らず多くの年齢で怪我が発生する。また、大腿部はスポーツ等での損傷が見られる。その疾患を知ることにより、柔道整復師として、適切な整復法、固定法、後療法を施術することができるようになる。また、運動器を理解するためには、機能解剖を学ぶことが必須である。関節の構造と機能を理解することで、自ら思考する力を身につけます。							
《成績評価の方法と基準》							
定期試験 100%にて評価する。							
《使用教材(教科書)及び参考図書》							
教科書 ・「柔道整復学・理論編 改訂第6版」 全国柔道整復学校協会・教科書委員会編・南江堂 ・「柔道整復学・実技編 改訂第2版」 全国柔道整復学校協会・教科書委員会編・南江堂							
《授業外における学習方法》							
・予習は、次回授業に該当する範囲を必ず一読し、授業に望むようにして下さい。 ・復習は、授業でやった内容のノートを確認し、次回の授業に望むようにしてください。							
《履修に当たっての留意点》							
欠席をしてしまうと、休んだ回の内容が完全に無い形で進んでしまうため、欠席が無いように心がけてください。							
授業の方法		内 容			使用教材	授業以外での準備学習 の具体的な内容	
第1回	講義形式	授業を通じての到達目標	膝関節部の軟部組織損傷について理解できる。		柔道整復学 理論編 柔道整復学 実技編	予習 膝関節周囲の骨のランドマーク、筋肉、神経の再確認 復習 ノートの読み直し	
		各コマにおける授業予定	膝関節の機能解剖について。				
第2回	講義形式	授業を通じての到達目標	膝関節部の軟部組織損傷について理解できる。		柔道整復学 理論編 柔道整復学 実技編	予習 膝関節周囲の骨のランドマーク、筋肉、神経の再確認 復習 ノートの読み直し	
		各コマにおける授業予定	半月板損傷、靱帯損傷について。				
第3回	講義形式	授業を通じての到達目標	膝関節部の軟部組織損傷について理解できる。		柔道整復学 理論編 柔道整復学 実技編	予習 膝関節周囲の骨のランドマーク、筋肉、神経の再確認 復習 ノートの読み直し	
		各コマにおける授業予定	靱帯損傷について。				
第4回	講義形式	授業を通じての到達目標	膝関節部の軟部組織損傷について理解できる。		柔道整復学 理論編 柔道整復学 実技編	予習 膝関節周囲の骨のランドマーク、筋肉、神経の再確認 復習 ノートの読み直し	
		各コマにおける授業予定	発育期の膝関節障害、腸脛靱帯炎について。				
第5回	講義形式	授業を通じての到達目標	膝関節部の軟部組織損傷について理解できる。		柔道整復学 理論編 柔道整復学 実技編	予習 膝関節周囲の骨のランドマーク、筋肉、神経の再確認 復習 ノートの読み直し	
		各コマにおける授業予定	鷲足炎、膝蓋大腿関節障害について。				

授業の方法		内 容		使用教材	授業以外での準備学習 の具体的な内容
第6回	講義形式	授業を通じての到達目標	膝関節部の軟部組織損傷について理解できる。	柔道整復学 理論編 柔道整復学 実技編	予習 膝関節周囲の骨のランドマーク、筋肉、神経の再確認 復習 ノートの読み直し
		各コマにおける授業予定	膝関節周囲の関節包、滑液包の異常、神経の障害、注意すべき疾患について。		
第7回	講義形式	授業を通じての到達目標	下腿部の軟部組織損傷について理解できる。	柔道整復学 理論編 柔道整復学 実技編	予習 下腿周囲の骨のランドマーク、筋肉、神経の再確認 復習 ノートの読み直し
		各コマにおける授業予定	アキレス腱炎、アキレス腱周囲炎、アキレス腱断裂について。		
第8回	講義形式	授業を通じての到達目標	下腿部の軟部組織損傷について理解できる。	柔道整復学 理論編 柔道整復学 実技編	予習 下腿周囲の骨のランドマーク、筋肉、神経の再確認 復習 ノートの読み直し
		各コマにおける授業予定	下腿三頭筋の肉ばなれについて。		
第9回	講義形式	授業を通じての到達目標	下腿部の軟部組織損傷について理解できる。	柔道整復学 理論編 柔道整復学 実技編	予習 下腿周囲の骨のランドマーク、筋肉、神経の再確認 復習 ノートの読み直し
		各コマにおける授業予定	下腿部のスポーツ障害について。		
第10回	講義形式	授業を通じての到達目標	下腿部の軟部組織損傷について理解できる。	柔道整復学 理論編 柔道整復学 実技編	予習 下腿周囲の骨のランドマーク、筋肉、神経の再確認 復習 ノートの読み直し
		各コマにおける授業予定	注意すべき疾患について。		
第11回	講義形式	授業を通じての到達目標	足関節・足部の軟部組織損傷について理解できる。	柔道整復学 理論編 柔道整復学 実技編	予習 足関節、足部の骨のランドマーク、筋肉、神経の再確認 復習 ノートの読み直し
		各コマにおける授業予定	足関節捻挫、足関節捻挫の類症鑑別について。		
第12回	講義形式	授業を通じての到達目標	足関節・足部の軟部組織損傷について理解できる。	柔道整復学 理論編 柔道整復学 実技編	予習 足関節、足部の骨のランドマーク、筋肉、神経の再確認 復習 ノートの読み直し
		各コマにおける授業予定	足関節捻挫、足関節捻挫の類症鑑別、注意すべき疾患について。		
第13回	講義形式	授業を通じての到達目標	足関節・足部の軟部組織損傷について理解できる。	柔道整復学 理論編 柔道整復学 実技編	予習 足関節、足部の骨のランドマーク、筋肉、神経の再確認 復習 ノートの読み直し
		各コマにおける授業予定	中足部から後足部の有痛性疾患について。		
第14回	講義形式	授業を通じての到達目標	足関節・足部の軟部組織損傷について理解できる。	柔道整復学 理論編 柔道整復学 実技編	予習 足関節、足部の骨のランドマーク、筋肉、神経の再確認 復習 ノートの読み直し
		各コマにおける授業予定	前足部の有痛性疾患、注意すべき疾患について。		
第15回	講義形式	授業を通じての到達目標	復習、定期試験について。	柔道整復学 理論編 柔道整復学 実技編	復習
		各コマにおける授業予定	練習問題など。		

2024 年度 授業計画(シラバス)

学 科		柔道整復スポーツトレーナー		科 目 区 分	基礎分野	授業の方法	講義演習
科 目 名		コンピューター		必修/選択の別	必修	授業時数(単位数)	30 (2) 時間(単位)
対 象 学 年		2年生		学期及び曜時限	前期 木・2限	教室名	pc視聴覚室
担 当 教 員		鈴木大空	実務経験と その関連資格				
《授業科目における学習内容》							
コンピューター自体の操作の習熟をはかることはもちろん、ソフトウェア間の連携、コンピューターネットワーク環境の適切な利用ができることに重点を置いて実施する。これにより、在学中ならびに卒業後の情報処理スキルの向上を図る。							
《成績評価の方法と基準》							
定期試験 70% 提出物 20% 態度・発表 10%							
《使用教材(教科書)及び参考図書》							
FOM出版 わかるとできるMicrosoft Word・Excel・PowerPoint 2010							
《授業外における学習方法》							
自宅にあるPCを使つての復習等。							
《履修に当たっての留意点》							
Microsoft Officeの基本的な操作方法を覚える。							
授業の方法		内 容			使用教材		授業以外での準備学習 の具体的な内容
第1回	講義演習形式	授業を通じての到達目標	Microsoft Officeとは何か。を理解する		FOM出版 わかるとできる		
		各コマにおける授業予定	ワード、エクセル、パワーポイントの紹介。簡単な操作方法		Microsoft Word・Excel・PowerPoint 2010		
第2回	講義演習形式	授業を通じての到達目標	文書作成ソフトを使って基本的な文書作成ができる		FOM出版 わかるとできる		
		各コマにおける授業予定	タイピング練習。ワードの基礎的な操作方法を覚える		Microsoft Word・Excel・PowerPoint 2010		
第3回	講義演習形式	授業を通じての到達目標	ビジネス文書を作成できる		FOM出版 わかるとできる		
		各コマにおける授業予定	文書作成、書式設定の方法を覚える		Microsoft Word・Excel・PowerPoint 2010		
第4回	講義演習形式	授業を通じての到達目標	グラフィック機能を利用し、表現豊かな文書を作成できる		FOM出版 わかるとできる		
		各コマにおける授業予定	文書内に写真・イラストを挿入する方法を覚える		Microsoft Word・Excel・PowerPoint 2010		
第5回	講義演習形式	授業を通じての到達目標	ワードでの表の作成や編集ができる		FOM出版 わかるとできる		
		各コマにおける授業予定	文書内での表の挿入の仕方、編集の仕方を覚える		Microsoft Word・Excel・PowerPoint 2010		

授業の方法		内 容		使用教材	授業以外での準備学習 の具体的な内容
第6回	講義 演習形式	授業を通じての到達目標	エクセルの基本操作ができる	FOM出版 わかる とできる	
		各コマにおける授業予定	エクセルの画面構成、操作方法を覚える	Microsoft Word・ Excel・ PowerPoint 2010	
第7回	講義 演習形式	授業を通じての到達目標	四則演算、関数、絶対参照といった計算機能を使う事ができる	FOM出版 わかる とできる	
		各コマにおける授業予定	エクセルでの表作成、関数を使った計算の方法を覚える	Microsoft Word・ Excel・ PowerPoint 2010	
第8回	講義 演習形式	授業を通じての到達目標	グラフの作成方法を理解し、活用できる	FOM出版 わかる とできる	
		各コマにおける授業予定	作成した表から、適切なグラフを選び挿入することができるようになる	Microsoft Word・ Excel・ PowerPoint 2010	
第9回	講義 演習形式	授業を通じての到達目標	データベース機能を理解し、活用できる	FOM出版 わかる とできる	
		各コマにおける授業予定	膨大な表から必要な情報を抽出し、抜き出すことができるようになる	Microsoft Word・ Excel・ PowerPoint 2010	
第10回	講義 演習形式	授業を通じての到達目標	エクセル・ワード まとめ練習問題 等	FOM出版 わかる とできる	
		各コマにおける授業予定	ワード・エクセルでの操作のまとめ問題集	Microsoft Word・ Excel・ PowerPoint 2010	
第11回	講義 演習形式	授業を通じての到達目標	PowerPointの基本操作ができる グラフィック機能を活用し、表現力豊かなスライドが作成できる	FOM出版 わかる とできる	
		各コマにおける授業予定	PowerPointを使ったスライドの作り方、基本的な操作方法を覚える	Microsoft Word・ Excel・ PowerPoint 2010	
第12回	講義 演習形式	授業を通じての到達目標	特殊効果を設定し、魅せるスライドの作り方を練習する	FOM出版 わかる とできる	
		各コマにおける授業予定	ページの切り替え設定を利用し、見た目を重視したスライドを作成	Microsoft Word・ Excel・ PowerPoint 2010	
第13回	講義 演習形式	授業を通じての到達目標	スライド作成ができる(課題作成)	FOM出版 わかる とできる	
		各コマにおける授業予定	与えられた課題について、自身で調べながらスライドを作成	Microsoft Word・ Excel・ PowerPoint 2010	
第14回	講義 演習形式	授業を通じての到達目標	与えられた課題に沿ってスライド作成、完成まで	FOM出版 わかる とできる	
		各コマにおける授業予定	課題作成、プレゼンテーション発表	Microsoft Word・ Excel・ PowerPoint 2010	
第15回	講義 演習形式	授業を通じての到達目標	Microsoft Officeでの操作方法を理解し、実践で使うことができるようになる	FOM出版 わかる とできる	
		各コマにおける授業予定	まとめと試験	Microsoft Word・ Excel・ PowerPoint 2010	

2024 年度 授業計画(シラバス)

学 科	柔道整復スポーツトレーナー		科 目 区 分	基礎分野	授業の方法	講義
科 目 名	心理学		必修/選択の別	必修	授業時数(単位数)	30 (2) 時間(単位)
対 象 学 年	2年生		学期及び曜時限	前期 水・2限	教室名	301
担 当 教 員	小松 弘子	実務経験と その関連資格	児童発達支援事業所めばえ 臨床心理士 公認心理師資格			
《授業科目における学習内容》						
心理学の基礎から応用まで、柔道整復師、スポーツトレーナーの業務に生かせる知識、技法などについて理論的に学ぶ						
《成績評価の方法と基準》						
定期試験 100%						
《使用教材(教科書)及び参考図書》						
新しい心理学ゼミナール 基礎から応用まで						
《授業外における学習方法》						
教科書に沿って心理学を学び、心理技法及びメンタルトレーニング、スポーツ心理に関連する技法を学習する						
《履修に当たっての留意点》						
授業の 方法		内 容			使用教材	授業以外での準備学習 の具体的な内容
第 1 回	講 義 形 式	授業を 通じての 到達目標	発達心理学		新しい心理学ゼ ミナール 基礎か ら応用まで	本読み予習
		各コマに おける 授業予定	動物と人間 人間発達のしくみ			
第 2 回	講 義 形 式	授業を 通じての 到達目標	発達心理学		新しい心理学ゼ ミナール 基礎か ら応用まで	本読み予習
		各コマに おける 授業予定	発達段階の心理学(乳児期～老年期)			
第 3 回	講 義 形 式	授業を 通じての 到達目標	知覚の心理学		新しい心理学ゼ ミナール 基礎か ら応用まで	本読み予習
		各コマに おける 授業予定	知覚の成立 3次元空間の成立 錯視現象 視覚以外の知覚			
第 4 回	講 義 形 式	授業を 通じての 到達目標	性格の心理学		新しい心理学ゼ ミナール 基礎か ら応用まで	本読み予習
		各コマに おける 授業予定	性格とはなにか? エゴグラムから自分を知る			
第 5 回	講 義 形 式	授業を 通じての 到達目標	認知の心理学		新しい心理学ゼ ミナール 基礎か ら応用まで	本読み予習
		各コマに おける 授業予定	注意 記憶 記憶演習、実践 集中力をつけるトレーニング			

授業の方法		内 容		使用教材	授業以外での準備学習 の具体的な内容
第6回	講義形式	授業を通じての到達目標	学習の心理学	新しい心理学ゼミナール 基礎から応用まで	本読み予習
		各コマにおける授業予定	学習とは 学習の形成 さまざまな学習		
第7回	講義形式	授業を通じての到達目標	感情と欲求の心理学	新しい心理学ゼミナール 基礎から応用まで	本読み予習
		各コマにおける授業予定	感情 欲求 自己評価を知り他者を知る演習		
第8回	講義形式	授業を通じての到達目標	臨床の心理学	新しい心理学ゼミナール 基礎から応用まで	本読み予習
		各コマにおける授業予定	心の仕組み 心のバランス(心の適応と不適応) 心の病		
第9回	講義形式	授業を通じての到達目標	臨床の心理学	新しい心理学ゼミナール 基礎から応用まで	本読み予習
		各コマにおける授業予定	心の治療 心理テスト		
第10回	講義形式	授業を通じての到達目標	社会の心理学	新しい心理学ゼミナール 基礎から応用まで	本読み予習
		各コマにおける授業予定	社会的認知 社会的自己 対人魅力		
第11回	講義形式	授業を通じての到達目標	社会の心理学	新しい心理学ゼミナール 基礎から応用まで	本読み予習
		各コマにおける授業予定	社会的態度 同調と服従 群集心理		
第12回	講義形式	授業を通じての到達目標	犯罪の心理学	新しい心理学ゼミナール 基礎から応用まで	本読み予習
		各コマにおける授業予定	犯罪の原因と防犯 さまざまな犯罪 非行・少年犯罪		
第13回	講義形式	授業を通じての到達目標	環境の心理学	新しい心理学ゼミナール 基礎から応用まで	本読み予習
		各コマにおける授業予定	環境とは コーチングについての演習		
第14回	講義形式	授業を通じての到達目標	スポーツの心理学	新しい心理学ゼミナール 基礎から応用まで	本読み予習
		各コマにおける授業予定	スポーツと動機づけ 運動学習 メンタルトレーニング		
第15回	講義形式	授業を通じての到達目標	心理学の歴史	新しい心理学ゼミナール 基礎から応用まで	本読み予習
		各コマにおける授業予定	心理学は19世紀中ごろに成立した 3つの勢力の出現 日本の心理学		

2024 年度 授業計画(シラバス)

学 科		柔道整復スポーツトレーナー		科 目 区 分	専門分野	授業の方法	実習演習
科 目 名		臨床実習 I		必修/選択の別	必修	授業時数(単位数)	45 (1) 時間(単位)
対 象 学 年		2年		学期及び曜時限	前期	教室名	附属整骨院
担 当 教 員		柴崎 清志	実務経験と その関連資格	鍼灸整骨院開業・大阪ハイテク附属整骨院 鍼灸師免許・柔道整復師免許 柔道整復師専科教員免許			
《授業科目における学習内容》							
症例を通じて学生たちに実習演習							
《成績評価の方法と基準》							
授業態度等を含めて評価							
《使用教材(教科書)及び参考図書》							
柔道整復学・理論編 実技編や整形外科学							
《授業外における学習方法》							
外部での患者さんの観察や考察							
《履修に当たっての留意点》							
実習に対する態度や医療従事者の倫理観を把握する。							
授業の方法		内 容			使用教材	授業以外での準備学習 の具体的な内容	
第1回	授業を通じての到達目標	施術対して、意義がわかるようになる。			公益財団法人 柔道整復学校協会 柔道整復学・理論 実技編	模擬患者予習・作成	
	各コマにおける授業予定	オリエンテーション					
第2回	授業を通じての到達目標	患者を想定することで施術がわかるようになる。			公益財団法人 柔道整復学校協会 柔道整復学・理論 実技編	模擬患者予習・作成	
	各コマにおける授業予定	模擬患者作成					
第3回	授業を通じての到達目標	ケガの状態がわかる。施術の進め方がわかる。			公益財団法人 柔道整復学校協会 柔道整復学・理論 実技編	模擬患者予習・作成	
	各コマにおける授業予定	症例1 模擬患者説明(患者の状態発表しながら実演)					
第4回	授業を通じての到達目標	ケガの状態がわかる。施術の進め方がわかる。			公益財団法人 柔道整復学校協会 柔道整復学・理論 実技編	模擬患者予習・作成	
	各コマにおける授業予定	症例1 模擬患者説明(患者の状態発表しながら実演)					
第5回	授業を通じての到達目標	ケガの状態がわかる。施術の進め方がわかる。			公益財団法人 柔道整復学校協会 柔道整復学・理論 実技編	模擬患者予習・作成	
	各コマにおける授業予定	症例2 模擬患者説明(患者の状態発表しながら実演)					

授業の方法		内 容	使用教材	授業以外での準備学習 の具体的な内容
第 6 回	授業を 通じての 到達目標	ケガの状態がわかる。施術の進め方がわかる。	公益財団法人 柔道整復学校協 会 柔道整復学・理 論 実技編	模擬患者予習・作成
	各コマに おける 授業予定	症例2 模擬患者説明(患者の状態発表しながら実演)		
第 7 回	授業を 通じての 到達目標	ケガの状態がわかる。施術の進め方がわかる。	公益財団法人 柔道整復学校協 会 柔道整復学・理 論 実技編	模擬患者予習・作成
	各コマに おける 授業予定	症例3 模擬患者説明(患者の状態発表しながら実演)		
第 8 回	授業を 通じての 到達目標	ケガの状態がわかる。施術の進め方がわかる。	公益財団法人 柔道整復学校協 会 柔道整復学・理 論 実技編	模擬患者予習・作成
	各コマに おける 授業予定	症例3 模擬患者説明(患者の状態発表しながら実演)		
第 9 回	授業を 通じての 到達目標	ケガの状態がわかる。施術の進め方がわかる。	公益財団法人 柔道整復学校協 会 柔道整復学・理 論 実技編	模擬患者予習・作成
	各コマに おける 授業予定	症例4 模擬患者説明(患者の状態発表しながら実演)		
第 10 回	授業を 通じての 到達目標	ケガの状態がわかる。施術の進め方がわかる。	公益財団法人 柔道整復学校協 会 柔道整復学・理 論 実技編	模擬患者予習・作成
	各コマに おける 授業予定	症例4 模擬患者説明(患者の状態発表しながら実演)		
第 11 回	授業を 通じての 到達目標	ケガの状態がわかる。施術の進め方がわかる。	公益財団法人 柔道整復学校協 会 柔道整復学・理 論 実技編	模擬患者予習・作成
	各コマに おける 授業予定	症例5 模擬患者説明(患者の状態発表しながら実演)		
第 12 回	授業を 通じての 到達目標	ケガの状態がわかる。施術の進め方がわかる。	公益財団法人 柔道整復学校協 会 柔道整復学・理 論 実技編	模擬患者予習・作成
	各コマに おける 授業予定	症例5 模擬患者説明(患者の状態発表しながら実演)		
第 13 回	授業を 通じての 到達目標	ケガの状態がわかる。施術の進め方がわかる。	公益財団法人 柔道整復学校協 会 柔道整復学・理 論 実技編	模擬患者予習・作成
	各コマに おける 授業予定	症例6 模擬患者説明(患者の状態発表しながら実演)		
第 14 回	授業を 通じての 到達目標	ケガの状態がわかる。施術の進め方がわかる。	公益財団法人 柔道整復学校協 会 柔道整復学・理 論 実技編	模擬患者予習・作成
	各コマに おける 授業予定	症例6 模擬患者説明(患者の状態発表しながら実演)		
第 15 回	授業を 通じての 到達目標	ケガの状態がわかる。施術の進め方がわかる。	公益財団法人 柔道整復学校協 会 柔道整復学・理 論 実技編	模擬患者予習・作成
	各コマに おける 授業予定	症例7 模擬患者説明(患者の状態発表しながら実演)		

2024 年度 美作市スポーツ医療看護専門学校授業計画(シラバス)

学 科		柔道整復スポーツトレーナー		科 目 区 分	基礎分野	授業の方法	講義実習
科 目 名		臨床柔道整復学・各論Ⅰ		必修/選択の別	必修	授業時数(単位数)	60 (4) 時間(単位)
対 象 学 年		2年生		学期及び曜時限	前期 金 3.4	教室名	302、実技室1
担 当 教 員		松澤 伸也	実務経験と その関連資格	柔道整復師、柔道整復師専科教員			
《授業科目における学習内容》							
上肢における骨折、脱臼について、各論で学んだことを応用して、評価、応急処置、整復法、固定法、後療法が実践できる ようになる。 このためにも、機能解剖学、損傷の発生機序、症状などの理論を繰り返し学習し、理解を深める。							
《成績評価の方法と基準》							
定期試験及び実技試験にて評価する。							
《使用教材(教科書)及び参考図書》							
・「柔道整復学・理論編 改訂第6版」 全国柔道整復学校協会・教科書委員会編・南江堂 ・「柔道整復学・実技編 改訂第2版」 全国柔道整復学校協会・教科書委員会編・南江堂 ・「運動療法のための機能解剖学的触診技術 上肢 改訂第3版」メジカルビュー社							
《授業外における学習方法》							
・予習は、次回授業に該当する範囲を必ず一読し、授業に望むようにして下さい。 ・復習は、授業でやった内容のノートを確認し、次回の授業に望むようにしてください。							
《履修に当たっての留意点》							
欠席をしてしまうと、休んだ回の内容が完全に無い形で進んでしまうため、欠席が無いように心がけてください。							
授業の 方法		内 容			使用教材	授業以外での準備学習 の具体的な内容	
第1回	実 習 形 式	授業を 通じての 到達目標	鎖骨骨折、肩鎖関節脱臼の評価法、整復法、固定法を理解、 実践できる。		教科書、評価用 備品、固定用備 品など	予習 上肢帯周囲の骨 のランドマーク、筋肉、 神経の再確認 復習 ノートの読み直し 実技の自主練習	
		各コマに おける 授業予定	評価法(医療面接、視診、触診など)				
第2回	実 習 形 式	授業を 通じての 到達目標	鎖骨骨折、肩鎖関節脱臼の評価法、整復法、固定法を理解、 実践できる。		教科書、評価用 備品、固定用備 品など	予習 上肢帯周囲の骨 のランドマーク、筋肉、 神経の再確認 復習 ノートの読み直し 実技の自主練習	
		各コマに おける 授業予定	評価法(医療面接、視診、触診など)				
第3回	実 習 形 式	授業を 通じての 到達目標	鎖骨骨折、肩鎖関節脱臼の評価法、整復法、固定法を理解、 実践できる。		教科書、評価用 備品、固定用備 品など	予習 上肢帯周囲の骨 のランドマーク、筋肉、 神経の再確認 復習 ノートの読み直し 実技の自主練習	
		各コマに おける 授業予定	評価法(医療面接、視診、触診など)				
第4回	実 習 形 式	授業を 通じての 到達目標	鎖骨骨折、肩鎖関節脱臼の評価法、整復法、固定法を理解、 実践できる。		教科書、評価用 備品、固定用備 品など	予習 上肢帯周囲の骨 のランドマーク、筋肉、 神経の再確認 復習 ノートの読み直し 実技の自主練習	
		各コマに おける 授業予定	整復法、固定法				
第5回	実 習 形 式	授業を 通じての 到達目標	鎖骨骨折、肩鎖関節脱臼の評価法、整復法、固定法を理解、 実践できる。		教科書、評価用 備品、固定用備 品など	予習 上肢帯周囲の骨 のランドマーク、筋肉、 神経の再確認 復習 ノートの読み直し 実技の自主練習	
		各コマに おける 授業予定	整復法、固定法				

授業の方法		内 容		使用教材	授業以外での準備学習の具体的な内容
第6回	実習形式	授業を通じての到達目標	鎖骨骨折、肩鎖関節脱臼の評価法、整復法、固定法を理解、実践できる。	教科書、評価用備品、固定用備品など	予習 肩関節周囲の骨のランドマーク、筋肉、神経の再確認 復習 ノートの読み直し 実技の自主練習
		各コマにおける授業予定	整復法、固定法		
第7回	実習形式	授業を通じての到達目標	肩関節脱臼の評価法、整復法、固定法を理解、実践できる。	教科書、評価用備品、固定用備品など	予習 肩関節周囲の骨のランドマーク、筋肉、神経の再確認 復習 ノートの読み直し 実技の自主練習
		各コマにおける授業予定	評価法(医療面接、視診、触診など)		
第8回	実習形式	授業を通じての到達目標	肩関節脱臼の評価法、整復法、固定法を理解、実践できる。	教科書、評価用備品、固定用備品など	予習 肩関節周囲の骨のランドマーク、筋肉、神経の再確認 復習 ノートの読み直し 実技の自主練習
		各コマにおける授業予定	評価法(医療面接、視診、触診など)		
第9回	実習形式	授業を通じての到達目標	肩関節脱臼の評価法、整復法、固定法を理解、実践できる。	教科書、評価用備品、固定用備品など	予習 肩関節周囲の骨のランドマーク、筋肉、神経の再確認 復習 ノートの読み直し 実技の自主練習
		各コマにおける授業予定	評価法(医療面接、視診、触診など)		
第10回	実習形式	授業を通じての到達目標	肩関節脱臼の評価法、整復法、固定法を理解、実践できる。	教科書、評価用備品、固定用備品など	予習 肩関節、上腕部周囲の骨のランドマーク、筋肉、神経の再確認 復習 ノートの読み直し 実技の自主練習
		各コマにおける授業予定	整復法、固定法		
第11回	実習形式	授業を通じての到達目標	肩関節脱臼の評価法、整復法、固定法を理解、実践できる。	教科書、評価用備品、固定用備品など	予習 肩関節、上腕部周囲の骨のランドマーク、筋肉、神経の再確認 復習 ノートの読み直し 実技の自主練習
		各コマにおける授業予定	整復法、固定法		
第12回	実習形式	授業を通じての到達目標	上腕骨外科頸骨折、上腕骨骨幹部骨折の評価法、応急処置法、固定法を理解、実践できる。	教科書、評価用備品、固定用備品など	予習 肩関節、上腕部周囲の骨のランドマーク、筋肉、神経の再確認 復習 ノートの読み直し 実技の自主練習
		各コマにおける授業予定	評価法(医療面接、視診、触診など)		
第13回	実習形式	授業を通じての到達目標	上腕骨外科頸骨折、上腕骨骨幹部骨折の評価法、応急処置法、固定法を理解、実践できる。	教科書、評価用備品、固定用備品など	予習 肩関節、上腕部周囲の骨のランドマーク、筋肉、神経の再確認 復習 ノートの読み直し 実技の自主練習
		各コマにおける授業予定	評価法(医療面接、視診、触診など)		
第14回	実習形式	授業を通じての到達目標	上腕骨外科頸骨折、上腕骨骨幹部骨折の評価法、応急処置法、固定法を理解、実践できる。	教科書、評価用備品、固定用備品など	予習 肘関節周囲の骨のランドマーク、筋肉、神経の再確認 復習 ノートの読み直し 実技の自主練習
		各コマにおける授業予定	応急処置法、固定法		
第15回	実習形式	授業を通じての到達目標	上腕骨外科頸骨折、上腕骨骨幹部骨折の評価法、応急処置法、固定法を理解、実践できる。	教科書、評価用備品、固定用備品など	予習 肘関節周囲の骨のランドマーク、筋肉、神経の再確認 復習 ノートの読み直し 実技の自主練習
		各コマにおける授業予定	応急処置法、固定法		

2024 年度 授業計画(シラバス)

学 科	柔道整復スポーツトレーナー		科 目 区 分	基礎分野	授業の方法	講義実習
科 目 名	臨床柔道整復学・各論Ⅱ 下肢		必修/選択の別	必修	授業時数(単位数)	60 (4) 時間(単位)
対 象 学 年	2年生		学期及び曜時限	前期 水3.4	教室名	302、実技室1
担 当 教 員	松澤 伸也	実務経験と その関連資格	柔道整復師、柔道整復師専科教員			
《授業科目における学習内容》						
下肢における骨折、脱臼について、各論で学んだことを応用して、評価、応急処置、整復法、固定法、後療法が実践できる ようになる。 このためにも、機能解剖学、損傷の発生機序、症状などの理論を繰り返し学習し、理解を深める。						
《成績評価の方法と基準》						
定期試験及び実技試験にて評価する。						
《使用教材(教科書)及び参考図書》						
・「柔道整復学・理論編 改訂第6版」 全国柔道整復学校協会・教科書委員会編・南江堂 ・「柔道整復学・実技編 改訂第2版」 全国柔道整復学校協会・教科書委員会編・南江堂 ・「運動療法のための機能解剖学的触診技術 下肢・体幹 改訂第3版」メジカルビュー社						
《授業外における学習方法》						
・予習は、次回授業に該当する範囲を必ず一読し、授業に望むようにして下さい。 ・復習は、ノートを確認し、次回の授業に望むようにしてください。 ・実技については、講義時間外にも繰り返し練習して下さい。						
《履修に当たっての留意点》						
欠席をしてしまうと、休んだ回の内容が完全に無い形で進んでしまうため、欠席が無いように心がけてください。						
授業の 方法		内 容		使用教材	授業以外での準備学習 の具体的な内容	
第 16 回	授業を 通じての 到達目標	下腿骨骨幹部骨折の評価法、応急処置法、固定法を理解、実 践できる。		教科書、評価用 備品、固定用備 品など	予習 足関節周囲の骨 のランドマーク、筋肉、 神経の再確認 復習 ノートの読み直し 実技の自主練習	
	各コマに おける 授業予定	応急処置法、固定法				
第 17 回	授業を 通じての 到達目標	足関節果部骨折、踵骨骨折の評価法、固定法を理解、実践で きる。		教科書、評価用 備品、固定用備 品など	予習 足関節周囲の骨 のランドマーク、筋肉、 神経の再確認 復習 ノートの読み直し 実技の自主練習	
	各コマに おける 授業予定	評価法(医療面接、視診、触診など)				
第 18 回	授業を 通じての 到達目標	足関節果部骨折、踵骨骨折の評価法、固定法を理解、実践で きる。		教科書、評価用 備品、固定用備 品など	予習 足関節周囲の骨 のランドマーク、筋肉、 神経の再確認 復習 ノートの読み直し 実技の自主練習	
	各コマに おける 授業予定	評価法(医療面接、視診、触診など)				
第 19 回	授業を 通じての 到達目標	足関節果部骨折、踵骨骨折の評価法、固定法を理解、実践で きる。		教科書、評価用 備品、固定用備 品など	予習 足関節周囲の骨 のランドマーク、筋肉、 神経の再確認 復習 ノートの読み直し 実技の自主練習	
	各コマに おける 授業予定	評価法(医療面接、視診、触診など)				
第 20 回	授業を 通じての 到達目標	足関節果部骨折、踵骨骨折の評価法、固定法を理解、実践で きる。		教科書、評価用 備品、固定用備 品など	予習 足部周囲の骨の ランドマーク、筋肉、神 経の再確認 復習 ノートの読み直し 実技の自主練習	
	各コマに おける 授業予定	固定法				

授業の方法		内 容	使用教材	授業以外での準備学習 の具体的な内容
第 21 回	授業を 通じての 到達目標	足関節果部骨折、踵骨骨折の評価法、固定法を理解、実践できる。	教科書、評価用 備品、固定用備 品など	予習 足部周囲の骨の ランドマーク、筋肉、神 経の再確認 復習 ノートの読み直し 実技の自主練習
	各コマに おける 授業予定	固定法		
第 22 回	授業を 通じての 到達目標	中足骨骨折の評価法、固定法を理解、実践できる。	教科書、評価用 備品、固定用備 品など	予習 足部周囲の骨の ランドマーク、筋肉、神 経の再確認 復習 ノートの読み直し 実技の自主練習
	各コマに おける 授業予定	評価法(医療面接、視診、触診など)		
第 23 回	授業を 通じての 到達目標	中足骨骨折の評価法、固定法を理解、実践できる。	教科書、評価用 備品、固定用備 品など	予習 足部周囲の骨の ランドマーク、筋肉、神 経の再確認 復習 ノートの読み直し 実技の自主練習
	各コマに おける 授業予定	評価法(医療面接、視診、触診など)		
第 24 回	授業を 通じての 到達目標	中足骨骨折の評価法、固定法を理解、実践できる。	教科書、評価用 備品、固定用備 品など	予習 足部周囲の骨の ランドマーク、筋肉、神 経の再確認 復習 ノートの読み直し 実技の自主練習
	各コマに おける 授業予定	評価法(医療面接、視診、触診など)		
第 25 回	授業を 通じての 到達目標	足趾の骨折、足趾の脱臼について評価法、整復法、固定法が 理解、実践できる。	教科書、評価用 備品、固定用備 品など	予習 足部周囲の骨の ランドマーク、筋肉、神 経の再確認 復習 ノートの読み直し 実技の自主練習
	各コマに おける 授業予定	評価法(医療面接、視診、触診など)		
第 26 回	授業を 通じての 到達目標	足趾の骨折、足趾の脱臼について評価法、整復法、固定法が 理解、実践できる。	教科書、評価用 備品、固定用備 品など	予習 足部周囲の骨の ランドマーク、筋肉、神 経の再確認 復習 ノートの読み直し 実技の自主練習
	各コマに おける 授業予定	評価法(医療面接、視診、触診など)		
第 27 回	授業を 通じての 到達目標	中足骨骨折、足趾の骨折、足趾の脱臼について評価法、整復 法、固定法が理解、実践できる。	教科書、評価用 備品、固定用備 品など	予習 足部周囲の骨の ランドマーク、筋肉、神 経の再確認 復習 ノートの読み直し 実技の自主練習
	各コマに おける 授業予定	整復法、固定法		
第 28 回	授業を 通じての 到達目標	中足骨骨折、足趾の骨折、足趾の脱臼について評価法、整復 法、固定法が理解、実践できる。	教科書、評価用 備品、固定用備 品など	復習 ノートの読み直し 実技の自主練習
	各コマに おける 授業予定	整復法、固定法		
第 29 回	授業を 通じての 到達目標	復習、定期試験、実技試験について。	教科書、評価用 備品、固定用備 品など	復習 ノートの読み直し 実技の自主練習
	各コマに おける 授業予定	実技練習		
第 30 回	授業を 通じての 到達目標	実技試験	教科書、評価用 備品、固定用備 品など	復習 ノートの読み直し 実技の自主練習
	各コマに おける 授業予定	実技試験		

2024 年度 授業計画(シラバス)

学 科		柔道整復スポーツトレーナー		科 目 区 分	基礎分野	授業の方法	講義
科 目 名		臨床柔道整復学・各論Ⅲ		必修/選択の別	必修	授業時数(単位数)	30 (2) 時間(単位)
対 象 学 年		2年		学期及び曜時限	前期 水・1限	教室名	301
担 当 教 員		松澤 伸也	実務経験と その関連資格	柔道整復師、柔道整復専科教員資格			
《授業科目における学習内容》 四肢の損傷はスポーツ傷害により発生する事が多く、膝関節や足関節はスポーツ傷害に限らず多くの年齢で怪我が発生する。また、大腿部はスポーツ等での損傷が見られる。その疾患を知ることにより、柔道整復師として、適切な整復法、固定法、後療法を施術することができるようになる。また、運動器を理解するためには、機能解剖を学ぶことが必須である。関節の構造と機能を理解することで、自ら思考する力を身につけます。							
《成績評価の方法と基準》 定期試験 100%にて評価する。							
《使用教材(教科書)及び参考図書》 柔道整復学・理論編 改訂第7版 全国柔道整復学校協会・教科書委員会編・南江堂 柔道整復学・実技編 改訂第2版 全国柔道整復学校協会・教科書委員会編・南江堂 解剖学改訂第2版 配布プリント							
《授業外における学習方法》 ・予習は、次回授業に該当する範囲を必ず一読し、授業に望むようにして下さい。 ・復習は、授業でやった内容のノートを確認し、次回の授業に望むようにしてください。							
《履修に当たっての留意点》 欠席をしてしまうと、休んだ回の内容が完全に無い形で進んでしまうため、欠席が無いように心がけてください。							
授業の方法		内 容			使用教材	授業以外での準備学習 の具体的な内容	
第1回	講義形式	授業を通じての到達目標	膝関節部の軟部組織損傷について理解できる。		柔道整復学 理論編 柔道整復学 実技編	予習 膝関節周囲の骨のランドマーク、筋肉、神経の再確認 復習 ノートの読み直し	
		各コマにおける授業予定	膝関節の機能解剖について。				
第2回	講義実習形式	授業を通じての到達目標	膝関節部の軟部組織損傷について理解できる。		柔道整復学 理論編 柔道整復学 実技編	予習 膝関節周囲の骨のランドマーク、筋肉、神経の再確認 復習 ノートの読み直し	
		各コマにおける授業予定	半月板損傷、靱帯損傷について。				
第3回	講義実習形式	授業を通じての到達目標	膝関節部の軟部組織損傷について理解できる。		柔道整復学 理論編 柔道整復学 実技編	予習 膝関節周囲の骨のランドマーク、筋肉、神経の再確認 復習 ノートの読み直し	
		各コマにおける授業予定	靱帯損傷について。				
第4回	講義実習形式	授業を通じての到達目標	膝関節部の軟部組織損傷について理解できる。		柔道整復学 理論編 柔道整復学 実技編	予習 膝関節周囲の骨のランドマーク、筋肉、神経の再確認 復習 ノートの読み直し	
		各コマにおける授業予定	発育期の膝関節障害、腸脛靱帯炎について。				
第5回	講義実習形式	授業を通じての到達目標	膝関節部の軟部組織損傷について理解できる。		柔道整復学 理論編 柔道整復学 実技編	予習 膝関節周囲の骨のランドマーク、筋肉、神経の再確認 復習 ノートの読み直し	
		各コマにおける授業予定	鷲足炎、膝蓋大腿関節障害について。				

授業の方法		内 容		使用教材	授業以外での準備学習 の具体的な内容
第6回	講義実習形式	授業を通じての到達目標	膝関節部の軟部組織損傷について理解できる。	柔道整復学 理論編 柔道整復学 実技編	予習 膝関節周囲の骨のランドマーク、筋肉、神経の再確認 復習 ノートの読み直し
		各コマにおける授業予定	膝関節周囲の関節包、滑液包の異常、神経の障害、注意すべき疾患について。		
第7回	講義実習形式	授業を通じての到達目標	下腿部の軟部組織損傷について理解できる。	柔道整復学 理論編 柔道整復学 実技編	予習 下腿周囲の骨のランドマーク、筋肉、神経の再確認 復習 ノートの読み直し
		各コマにおける授業予定	アキレス腱炎、アキレス腱周囲炎、アキレス腱断裂について。		
第8回	講義実習形式	授業を通じての到達目標	下腿部の軟部組織損傷について理解できる。	柔道整復学 理論編 柔道整復学 実技編	予習 下腿周囲の骨のランドマーク、筋肉、神経の再確認 復習 ノートの読み直し
		各コマにおける授業予定	下腿三頭筋の肉ばなれについて。		
第9回	講義実習形式	授業を通じての到達目標	下腿部の軟部組織損傷について理解できる。	柔道整復学 理論編 柔道整復学 実技編	予習 下腿周囲の骨のランドマーク、筋肉、神経の再確認 復習 ノートの読み直し
		各コマにおける授業予定	下腿部のスポーツ障害について。		
第10回	講義実習形式	授業を通じての到達目標	下腿部の軟部組織損傷について理解できる。	柔道整復学 理論編 柔道整復学 実技編	予習 下腿周囲の骨のランドマーク、筋肉、神経の再確認 復習 ノートの読み直し
		各コマにおける授業予定	注意すべき疾患について。		
第11回	講義実習形式	授業を通じての到達目標	足関節・足部の軟部組織損傷について理解できる。	柔道整復学 理論編 柔道整復学 実技編	予習 足関節、足部の骨のランドマーク、筋肉、神経の再確認 復習 ノートの読み直し
		各コマにおける授業予定	足関節捻挫、足関節捻挫の類症鑑別について。		
第12回	講義実習形式	授業を通じての到達目標	足関節・足部の軟部組織損傷について理解できる。	柔道整復学 理論編 柔道整復学 実技編	予習 足関節、足部の骨のランドマーク、筋肉、神経の再確認 復習 ノートの読み直し
		各コマにおける授業予定	足関節捻挫、足関節捻挫の類症鑑別、注意すべき疾患について。		
第13回	講義実習形式	授業を通じての到達目標	足関節・足部の軟部組織損傷について理解できる。	柔道整復学 理論編 柔道整復学 実技編	予習 足関節、足部の骨のランドマーク、筋肉、神経の再確認 復習 ノートの読み直し
		各コマにおける授業予定	中足部から後足部の有痛性疾患について。		
第14回	講義実習形式	授業を通じての到達目標	足関節・足部の軟部組織損傷について理解できる。	柔道整復学 理論編 柔道整復学 実技編	予習 足関節、足部の骨のランドマーク、筋肉、神経の再確認 復習 ノートの読み直し
		各コマにおける授業予定	前足部の有痛性疾患、注意すべき疾患について。		
第15回	講義実習形式	授業を通じての到達目標	復習、定期試験について。	柔道整復学 理論編 柔道整復学 実技編	復習
		各コマにおける授業予定	練習問題など。		

2024 年度 授業計画(シラバス)

学 科		柔道整復スポーツトレーナー		科 目 区 分	専門基礎分野	授業の方法	講義
科 目 名		一般臨床医学		必修/選択の別	必修	授業時数(単位数)	1 (30) 時間(単位)
対 象 学 年		2年生		学期及び曜時限	後期 水・4限	教室名	302教室
担 当 教 員		塩路 康信	実務経験と その関連資格	医師			
《授業科目における学習内容》							
柔道整復師として内科疾患を治療することはありませんが、施術のために必要になる知識です。 国家試験合格レベルを最低限として習得。							
《成績評価の方法と基準》							
定期試験 100%							
《使用教材(教科書)及び参考図書》							
基礎医学の確認を行ないながら、生理学・病理学を基本として症状から一般的な治療法までを教授。 教科書内容(一般臨床医学:医歯薬出版)に応じて、教科書、スライドを使って授業を進めます。							
《授業外における学習方法》							
教科書に沿って、医学漢字・用語の確認 国家試験に対して重要科目で、必ず必要となる総論や概論であるため、確認作業がいる科目							
《履修に当たっての留意点》							
高齢者を診療対象とする柔道整復師には、一般臨床医学の内容は必須であると考えています。 勉強する内容は多いかもしれませんが、医師としての経験を交えながら、臨床に即して伝えますので頑張って勉強しまし よう。							
授業の 方法		内 容			使用教材		授業以外での準備学習 の具体的な内容
第 1 回	講 義 形 式	授業を 通じての 到達目標	診察・医療面接の意義が理解できるようになる		一般臨床医学 (医歯薬出版)	医学用語,単語の意味	
		各コマに おける 授業予定	診察概論,診察各論,医療面接				
第 2 回	講 義 形 式	授業を 通じての 到達目標	診察各論:視診の意義・方法が理解できるようにする。		一般臨床医学 (医歯薬出版)	病気の原因・症状等の 復習	
		各コマに おける 授業予定	視診:体位,姿勢,歩行,皮膚の状態,頭部・顔面・腹部・四肢の 変形				
第 3 回	講 義 形 式	授業を 通じての 到達目標	診察各論:打診・聴診・触診の意義・方法が理解できるようにす る。		一般臨床医学 (医歯薬出版)	病気の原因・症状等の 復習	
		各コマに おける 授業予定	打診・聴診・触診:肺・腹部の聴打診,心音, 腹部・リンパ節の触 診				
第 4 回	講 義 形 式	授業を 通じての 到達目標	生命徴候の意義が理解できるようになる。		一般臨床医学 (医歯薬出版)	病気の原因・症状等の 復習	
		各コマに おける 授業予定	血圧測定, 検脈を実践し生命徴候の意義を理解する				
第 5 回	講 義 形 式	授業を 通じての 到達目標	感覚検査・反射検査の意義・意味の理解が出来るようにする。		一般臨床医学 (医歯薬出版)	病気の原因・症状等の 復習	
		各コマに おける 授業予定	感覚検査:表在・深部・複合感覚, 反射検査:表在・腱・病的・ 自律神経				

授業の方法		内 容		使用教材	授業以外での準備学習の具体的な内容
第6回	講義形式	授業を通じての到達目標	臨床症状・検査法の意義・意味が理解できるようにする。	一般臨床医学 (医歯薬出版)	病気の原因・症状等の復習
		各コマにおける授業予定	代表的な臨床症状:発熱,出血傾向,リンパ節腫脹,意識障害,チアノーゼ,関節痛,浮腫,肥満,やせ		
第7回	講義形式	授業を通じての到達目標	呼吸器疾患の総論または病気について説明できるようになる。	一般臨床医学 (医歯薬出版)	病気の原因・症状等の復習
		各コマにおける授業予定	1.総論 2.各疾患(慢性閉塞性肺疾患【COPD】・肺癌・肺血栓塞栓症・気胸)		
第8回	講義形式	授業を通じての到達目標	循環器疾患の病気について説明できるようになる。	一般臨床医学 (医歯薬出版)	病気の原因・症状等の復習
		各コマにおける授業予定	1.総論 2.各疾患(うっ血性心不全・虚血性心疾患・心臓弁膜症・先天性心疾患・高血圧症・大動脈疾患・静脈疾患・不整脈)		
第9回	講義形式	授業を通じての到達目標	消化器疾患の総論または病気について説明できるようになる。	一般臨床医学 (医歯薬出版)	病気の原因・症状等の復習
		各コマにおける授業予定	消化器疾患 1. 総論 2. 各疾患(消化管疾患・肝胆膵疾患・腹膜疾患)		
第10回	講義形式	授業を通じての到達目標	代謝疾患の総論または病気について説明できるようになる。	一般臨床医学 (医歯薬出版)	病気の原因・症状等の復習
		各コマにおける授業予定	代謝疾患 1. 総論 2各疾患(糖尿病・脂質異常症・肥満症・メタボリックシンドローム・高尿酸血症・痛風)		
第11回	講義形式	授業を通じての到達目標	内分泌疾患の総論または病気について説明できるようになる。	一般臨床医学 (医歯薬出版)	病気の原因・症状等の復習
		各コマにおける授業予定	内分泌疾患 1. 総論 2. 各疾患(間脳疾患・下垂体疾患・甲状腺疾患・副甲状腺疾患)		
第12回	講義形式	授業を通じての到達目標	血液・造血疾患の総論または病気について説明できるようになる。	一般臨床医学 (医歯薬出版)	病気の原因・症状等の復習
		各コマにおける授業予定	血液・造血疾患 1. 総論 2. 各疾患(赤血球疾患・白血球系疾患・リンパ系疾患・出血性素因・血漿蛋白異常症)		
第13回	講義形式	授業を通じての到達目標	腎・尿路疾患の総論または病気について説明できるようになる。	一般臨床医学 (医歯薬出版)	病気の原因・症状等の復習
		各コマにおける授業予定	腎・尿路疾患 1. 総論 2. 各疾患(腎不全・糸球体疾患・間質の疾患・尿路感染症・遺伝性腎疾患・全身疾患に伴う腎障害・泌尿器科的疾患)		
第14回	講義形式	授業を通じての到達目標	神経疾患の総論または病気について説明できるようになる。	一般臨床医学 (医歯薬出版)	病気の原因・症状等の復習
		各コマにおける授業予定	神経疾患 1. 総論 2. 各疾患(脳血管障害・腫瘍性疾患・感染性疾患・機能性疾患・神経変性疾患・炎症性神経疾患・神経免疫疾患・筋疾患)		
第15回	講義形式	授業を通じての到達目標	感染症・リウマチ・膠原病・アレルギー疾患について説明できるようにする	一般臨床医学 (医歯薬出版)	病気の原因・症状等の復習
		各コマにおける授業予定	感染症:市中感染と院内感染・日和見感染,呼吸器感染症・尿路感染膠原病各疾患・リウマチの病態と治療,アレルギー反応について		

2024 年度 授業計画(シラバス)

学 科		柔道整復スポーツトレーナー学科		科 目 区 分	専門分野	授業の方法	講義
科 目 名		外傷の保存療法		必修/選択の別	必修	授業時数(単位数)	15 (1) 時間(単位)
対 象 学 年		2年生		学期及び曜時限	前期	教室名	302教室
担 当 教 員		奥出 一貴	実務経験と その関連資格	柔道整復師、柔道整復師専科教員、NSCA-CPT、赤十字救急法指導員			
《授業科目における学習内容》							
柔道整復師の業務範囲である骨折、脱臼、捻挫、打撲、挫傷について各傷害についての保存療法について注意点や固定法、後療法について学ぶ。							
《成績評価の方法と基準》							
定期試験:100%							
《使用教材(教科書)及び参考図書》							
南江堂 実践にもとづく骨折・脱臼の保存療法 南江堂 柔道整復理論 改訂第6版 配布プリント							
《授業外における学習方法》							
柔道整復理論の各論の各部位の骨折、脱臼、軟部組織損傷の復習、また履修してない部分については予習を行い、各傷害の内容について理解しておく。							
《履修に当たっての留意点》							
各傷害についての内容を理解していないと、保存療法についての知識が入ってこないため、しっかりと各傷害についての復習、予習を行ってもらいたい。							
授業の方法			内 容		使用教材	授業以外での準備学習 の具体的な内容	
第1回	講義形式	授業を通じての到達目標	骨折、脱臼の復習で理解を深め、保存療法におけるX線画像、整復法、固定法、運動療法の基礎知識について理解できるようにする。		実践にもとづく骨折・脱臼の保存療法 柔道整復理論 改訂第6版 配布プリント	柔道整復学・理論編の総論を見直しておく。	
		各コマにおける授業予定	保存療法 総論①				
第2回	講義形式	授業を通じての到達目標	肩関節前方脱臼の復習と保存療法について理解できるようになる。		実践にもとづく骨折・脱臼の保存療法 柔道整復理論 改訂第6版 配布プリント	柔整理論の肩関節前方脱臼を読んでおく。 解剖学にて肩関節周囲の関連する項目の内容確認。	
		各コマにおける授業予定	肩関節前方脱臼				
第3回	講義形式	授業を通じての到達目標	橈骨遠位端骨折の復習と保存療法について理解できるようになる。		実践にもとづく骨折・脱臼の保存療法 柔道整復理論 改訂第6版 配布プリント	柔整理論の肩関節前方脱臼を読んでおく。 解剖学にて肩関節周囲の関連する項目の内容確認。	
		各コマにおける授業予定	橈骨遠位端骨折				
第4回	講義形式	授業を通じての到達目標	舟状骨骨折の復習と保存療法について理解できるようになる。		実践にもとづく骨折・脱臼の保存療法 柔道整復理論 改訂第6版 配布プリント	柔整理論の舟状骨骨折を読んでおく。 解剖学にて手根骨に関連する項目の内容確認。	
		各コマにおける授業予定	舟状骨骨折				
第5回	講義形式	授業を通じての到達目標	膝蓋骨骨折の復習と保存療法について理解できるようになる。		実践にもとづく骨折・脱臼の保存療法 柔道整復理論 改訂第6版 配布プリント	柔整理論の舟状骨骨折を読んでおく。 解剖学にて手根骨に関連する項目の内容確認。	
		各コマにおける授業予定	膝蓋骨骨折				

授業の方法		内 容		使用教材	授業以外での準備学習 の具体的な内容
第6回	講義形式	授業を通じての到達目標	膝関節靱帯損傷の復習と保存療法について理解できるようになる。	柔道整復理論 改訂第6版 配布プリント	柔整理論の肩関節周囲炎を読んでおく。 解剖学で肩関節に関連する項目の内容確認。
		各コマにおける授業予定	膝関節靱帯損傷		
第7回	講義形式	授業を通じての到達目標	アキレス腱断裂折の復習と保存療法について理解できるようになる。	実践にもとづく骨折・脱臼の保存療法 柔道整復理論 改訂第6版 配布プリント	柔整理論の橈骨遠位端骨折を読んでおく。 解剖学で橈骨遠位端部に関連する項目の内容確認。
		各コマにおける授業予定	アキレス腱断裂		
第8回	講義形式	授業を通じての到達目標	松葉杖の長さ、握りの高さの調整方法、歩行やコッドマン体操について理解することができるようになる。	実践にもとづく骨折・脱臼の保存療法 柔道整復理論 改訂第6版 配布プリント	全7回の内容を配布プリント、教科書を参考に復習しておく。
		各コマにおける授業予定	松葉杖歩行、コッドマン体操		
第9回	講義形式	授業を通じての到達目標			
		各コマにおける授業予定			
第10回	講義形式	授業を通じての到達目標			
		各コマにおける授業予定			
第11回	講義形式	授業を通じての到達目標			
		各コマにおける授業予定			
第12回	講義形式	授業を通じての到達目標			
		各コマにおける授業予定			
第13回	講義形式	授業を通じての到達目標			
		各コマにおける授業予定			
第14回	講義形式	授業を通じての到達目標			
		各コマにおける授業予定			
第15回	講義形式	授業を通じての到達目標			
		各コマにおける授業予定			

2024 年度 授業計画(シラバス)

学 科		柔道整復スポーツトレーナー		科 目 区 分	その他	授業の方法	講義
科 目 名		健康運動実践講座		必修/選択の別	必修	授業時数(単位数)	2 (30) 時間(単位)
対 象 学 年		2年生		学期及び曜時限	後期	教室名	302教室
担 当 教 員		生田晶子	実務経験と その関連資格	健康運動指導士 NSCA-CPT			
《授業科目における学習内容》							
「健康運動実践指導者」認定試験対策問題集を使用し、試験対策を行ないながら、 1年次に学んだ健康運動実践指導者として必要な知識について再度確認する							
《成績評価の方法と基準》							
試験評価 70% 出席評価・定常評価 30%							
《使用教材(教科書)及び参考図書》							
健康運動実践指導者養成用テキスト 「健康運動実践指導者」認定試験対策問題集							
《授業外における学習方法》							
テキストを精読し、理解、記憶できるよう努める							
《履修に当たっての留意点》							
授業の 方法		内 容			使用教材	授業以外での準備学習 の具体的な内容	
第 1 回	講義 形式	授業を 通じての 到達目標	「健康運動実践指導者」認定試験対策問題集 第1章 健康づくり施策概論 について理解する		・「健康運動実践 指導者」認定試 験対策問題集 ・健康運動実践 指導者養成用テ キスト	・予めテキストに目を通 しておく ・昨年度受講した該当 章の授業内容を見直し ておく	
		各コマに おける 授業予定	第1章 1問～25問(25問／全25問)の問題解答				
第 2 回	講義 形式	授業を 通じての 到達目標	「健康運動実践指導者」認定試験対策問題集 第1章 健康づくり施策概論 について理解する		・「健康運動実践 指導者」認定試 験対策問題集 ・健康運動実践 指導者養成用テ キスト	・予めテキストに目を通 しておく ・昨年度受講した該当 章の授業内容を見直し ておく	
		各コマに おける 授業予定	第2章 1問～20問(20問／全50問)の問題解答				
第 3 回	講義 形式	授業を 通じての 到達目標	「健康運動実践指導者」認定試験対策問題集 第2章 運動生理学 について理解する		・「健康運動実践 指導者」認定試 験対策問題集 ・健康運動実践 指導者養成用テ キスト	・予めテキストに目を通 しておく ・昨年度受講した該当 章の授業内容を見直し ておく	
		各コマに おける 授業予定	第2章 21問～40問(20問／全50問)の問題解答				
第 4 回	講義 形式	授業を 通じての 到達目標	「健康運動実践指導者」認定試験対策問題集 第2章 運動生理学 / 認知症を予防する運動 第3章 機能解剖とバイオメカニクス について理解する		・「健康運動実践 指導者」認定試 験対策問題集 ・健康運動実践 指導者養成用テ キスト	・予めテキストに目を通 しておく ・昨年度受講した該当 章の授業内容を見直し ておく	
		各コマに おける 授業予定	第2章 41問～50問(10問／全50問)の問題解答 認知症を予防する運動 2問 第3章 1問～10問(10問／全35問)の問題解答				
第 5 回	講義 形式	授業を 通じての 到達目標	「健康運動実践指導者」認定試験対策問題集 第3章 機能解剖とバイオメカニクス について理解する		・「健康運動実践 指導者」認定試 験対策問題集 ・健康運動実践 指導者養成用テ キスト	・予めテキストに目を通 しておく ・昨年度受講した該当 章の授業内容を見直し ておく	
		各コマに おける 授業予定	第3章 11問～35問(25問／全35問)の問題解答				

授業の方法		内 容		使用教材	授業以外での準備学習 の具体的な内容
第6回	講義形式	授業を通じての到達目標	「健康運動実践指導者」認定試験対策問題集 第4章 栄養摂取と運動 について理解する	・「健康運動実践指導者」認定試験対策問題集 ・健康運動実践指導者養成用テキスト	・予めテキストに目を通しておく ・昨年度受講した該当章の授業内容を見直しておく
		各コマにおける授業予定	第4章 1問～26問(26問／全40問)の問題解答		
第7回	講義形式	授業を通じての到達目標	「健康運動実践指導者」認定試験対策問題集 第4章 栄養摂取と運動 / 第5章 体力測定と評価 について理解する	・「健康運動実践指導者」認定試験対策問題集 ・健康運動実践指導者養成用テキスト	・予めテキストに目を通しておく ・昨年度受講した該当章の授業内容を見直しておく
		各コマにおける授業予定	第4章 27問～40問(14問／全40問)の問題解答 第5章 1問～13問(13問／全40問)の問題解答		
第8回	講義形式	授業を通じての到達目標	「健康運動実践指導者」認定試験対策問題集 第5章 体力測定と評価 について理解する	・「健康運動実践指導者」認定試験対策問題集 ・健康運動実践指導者養成用テキスト	・予めテキストに目を通しておく ・昨年度受講した該当章の授業内容を見直しておく
		各コマにおける授業予定	第5章 14問～40問(27問／全40問)の問題解答		
第9回	講義形式	授業を通じての到達目標	「健康運動実践指導者」認定試験対策問題集 第6章 健康づくり運動と健康プログラム について理解する	・「健康運動実践指導者」認定試験対策問題集 ・健康運動実践指導者養成用テキスト	・予めテキストに目を通しておく ・昨年度受講した該当章の授業内容を見直しておく
		各コマにおける授業予定	第6章 1問～30問(30問／全30問)の問題解答		
第10回	講義形式	授業を通じての到達目標	「健康運動実践指導者」認定試験対策問題集 第7章 運動指導の心理学的基礎 について理解する	・「健康運動実践指導者」認定試験対策問題集 ・健康運動実践指導者養成用テキスト	・予めテキストに目を通しておく ・昨年度受講した該当章の授業内容を見直しておく
		各コマにおける授業予定	第7章 1問～25問(25問／全25問)の問題解答		
第11回	講義形式	授業を通じての到達目標	「健康運動実践指導者」認定試験対策問題集 第8章 健康づくり運動の実際 について理解する	・「健康運動実践指導者」認定試験対策問題集 ・健康運動実践指導者養成用テキスト	・予めテキストに目を通しておく ・昨年度受講した該当章の授業内容を見直しておく
		各コマにおける授業予定	第8章 1問～30問(30問／全105問)の問題解答		
第12回	講義形式	授業を通じての到達目標	「健康運動実践指導者」認定試験対策問題集 第8章 健康づくり運動の実際 について理解する	・「健康運動実践指導者」認定試験対策問題集 ・健康運動実践指導者養成用テキスト	・予めテキストに目を通しておく ・昨年度受講した該当章の授業内容を見直しておく
		各コマにおける授業予定	第8章 31問～60問(30問／全105問)の問題解答		
第13回	講義形式	授業を通じての到達目標	「健康運動実践指導者」認定試験対策問題集 第8章 健康づくり運動の実際 について理解する	・「健康運動実践指導者」認定試験対策問題集 ・健康運動実践指導者養成用テキスト	・予めテキストに目を通しておく ・昨年度受講した該当章の授業内容を見直しておく
		各コマにおける授業予定	第8章 61問～90問(30問／全105問)の問題解答		
第14回	講義形式	授業を通じての到達目標	「健康運動実践指導者」認定試験対策問題集 第8章 健康づくり運動の実際 第9章 運動障害と予防・救急処置 について理解する	・「健康運動実践指導者」認定試験対策問題集 ・健康運動実践指導者養成用テキスト	・予めテキストに目を通しておく ・昨年度受講した該当章の授業内容を見直しておく
		各コマにおける授業予定	第8章 91問～105問(15問／全105問)の問題解答 第9章 1問～13問(13問／全40問)の問題解答		
第15回	講義形式	授業を通じての到達目標	「健康運動実践指導者」認定試験対策問題集 第9章 運動障害と予防・救急処置 について理解する	・「健康運動実践指導者」認定試験対策問題集 ・健康運動実践指導者養成用テキスト	・予めテキストに目を通しておく ・昨年度受講した該当章の授業内容を見直しておく
		各コマにおける授業予定	第9章 1問～40問(40問／全40問)の問題解答		

2024 年度 授業計画(シラバス)

学 科		柔道整復スポーツトレーナー		科 目 区 分	専門基礎分野	授業の方法	講義
科 目 名		公衆衛生学		必修/選択の別	必修	授業時数(単位数)	30 (1) 時間(単位)
対 象 学 年		2年生		学期及び曜時限	後期	教室名	302教室
担 当 教 員		新庄 文明	実務経験と その関連資格	前長崎大学大学院教授(公衆衛生学)、ロンドン大学キングスカレッジ客員助教授、 元大阪大学医学部講師(社会系医学)、医学博士、歯科医師			
《授業科目における学習内容》							
公衆衛生学は、疾病の背景となる環境や人々の生活と、健康を保持・増進させるための社会の様々な仕組みについて、そのライフステージや背景を踏まえて科学的に研究する学問であり、極めて実践的な分野である。人々がなぜ疾病に罹るか、そして健康を回復・保持するための運動や生活習慣などの指導と直結した知識をすることとなる。							
《成績評価の方法と基準》							
定期試験 100%							
《使用教材(教科書)及び参考図書》							
全国柔道整復学校協会監修 『衛生学・公衆衛生学』 改訂第6版(医歯薬出版)							
《授業外における学習方法》							
公衆衛生学は現在の社会の諸問題ならびに、それに対する政治・経済・文化的な人々の反応と直接にかかわる分野であり、新聞や出版物を通じて、今日の社会の動きなどについて関心をもち、自らの判断力を養うことが重要である。							
《履修に当たっての留意点》							
健康や疾病の発生とその予防について、社会とのかかわりの中で理解し、身体の機能障害が個人的な事象だけでなく、社会の中で発生し、問題解決できるという総合的な判断力を身に着ける。							
授業の方法			内 容		使用教材		授業以外での準備学習 の具体的な内容
第1回	講義形式	授業を通じての到達目標	公衆衛生学の歴史、疾病の自然史と予防対策、国内外の公衆衛生活動の動向について理解する		教科書『衛生学・公衆衛生学』および配布する補助資料	配布資料のうち学習小テストの内容を復習・確認する。	
		各コマにおける授業予定	公衆衛生学総論:疾病予防と健康管理				
第2回	講義形式	授業を通じての到達目標	健康の概念と健康水準、地域や国の健康指標としての人口の捉え方について理解する		教科書『衛生学・公衆衛生学』および配布する補助資料	配布資料のうち学習小テストの内容を復習・確認する。	
		各コマにおける授業予定	人口と健康指標				
第3回	講義形式	授業を通じての到達目標	感染とは何か、その条件や背景について理解する		教科書『衛生学・公衆衛生学』および配布する補助資料	配布資料のうち学習小テストの内容を復習・確認する。	
		各コマにおける授業予定	感染症の予防 ①				
第4回	講義形式	授業を通じての到達目標	要因別の感染予防の考え方、実際の対策とその方法について理解する		教科書『衛生学・公衆衛生学』および配布する補助資料	配布資料のうち学習小テストの内容を復習・確認する。	
		各コマにおける授業予定	感染症の予防 ②				
第5回	講義形式	授業を通じての到達目標	人々の生活をとりまく様々な環境要因とその影響、環境と疾病との関連について理解する		教科書『衛生学・公衆衛生学』および配布する補助資料	配布資料のうち学習小テストの内容を復習・確認する。	
		各コマにおける授業予定	環境衛生				
授業の方法			内 容		使用教材		授業以外での準備学習 の具体的な内容

第6回	講義形式	授業を通じての到達目標	飲食物と健康、栄養改善と食品の安全性確保について理解する	教科書『衛生学・公衆衛生学』および配布する補助資料	配布資料のうち学習小テストの内容を復習・確認する。
		各コマにおける授業予定	食品衛生		
第7回	講義形式	授業を通じての到達目標	母体の保護から育児、学童の生育環境の整備にかかわる社会の取り組みについて理解する	教科書『衛生学・公衆衛生学』および配布する補助資料	配布資料のうち学習小テストの内容を復習・確認する。
		各コマにおける授業予定	母子保健と学校保健		
第8回	講義形式	授業を通じての到達目標	働く人々健康と安全の確保にむけた取り組みについて理解する	教科書『衛生学・公衆衛生学』および配布する補助資料	配布資料のうち学習小テストの内容を復習・確認する。
		各コマにおける授業予定	産業保健		
第9回	講義形式	授業を通じての到達目標	人々のライフスタイルと健康について学び、健康づくりの現状と取り組みについて理解する	教科書『衛生学・公衆衛生学』および配布する補助資料	配布資料のうち学習小テストの内容を復習・確認する。
		各コマにおける授業予定	成人保健		
第10回	講義形式	授業を通じての到達目標	高齢者の健康保持と要介護者の支援等、社会の取り組みのとその現状について理解する	教科書『衛生学・公衆衛生学』および配布する補助資料	配布資料のうち学習小テストの内容を復習・確認する。
		各コマにおける授業予定	老人保健と社会福祉		
第11回	講義形式	授業を通じての到達目標	こころの健康として、社会と心身の健康の関りを理解する	教科書『衛生学・公衆衛生学』および配布する補助資料	配布資料のうち学習小テストの内容を復習・確認する。
		各コマにおける授業予定	精神保健		
第12回	講義形式	授業を通じての到達目標	地域社会における保健対策の推移を学び、今日の衛生行政の機構を対策、法律や制度を理解する	教科書『衛生学・公衆衛生学』および配布する補助資料	配布資料のうち学習小テストの内容を復習・確認する。
		各コマにおける授業予定	地域保健と国際保健、衛生行政と保健医療制度		
第13回	講義形式	授業を通じての到達目標	医療における安全対策、医療事故の防止、ならびに健康と生命にかかわる倫理的な課題について理解する	教科書『衛生学・公衆衛生学』および配布する補助資料	配布資料のうち学習小テストの内容を復習・確認する。
		各コマにおける授業予定	医療と生命倫理		
第14回	講義形式	授業を通じての到達目標	一人一人の疾病や健康状態を集団的な視野から分析する疫学の発展、その手法について理解する	教科書『衛生学・公衆衛生学』および配布する補助資料	配布資料のうち学習小テストの内容を復習・確認する。
		各コマにおける授業予定	疫学とその考え方		
第15回	講義形式	授業を通じての到達目標	後期の課題を整理し、理解度を確認する	教科書『衛生学・公衆衛生学』および配布する補助資料	配布資料のうち学習小テストの内容を復習・確認する。
		各コマにおける授業予定	まとめ		

2024 年度 授業計画(シラバス)

学 科	柔道整復スポーツトレーナー		科 目 区 分	専門分野	授業の方法	実習
科 目 名	柔整実践実技		必修/選択の別	必修	授業時数(単位数)	30 (1) 時間(単位)
対 象 学 年	2年生		学期及び曜時限	後期	教室名	実技室
担 当 教 員	松澤 伸也	実務経験と その関連資格	柔道整復師、柔道整復師専科教員資格			
《授業科目における学習内容》						
実例を通して各症例の所見、整復、固定、後療、日常生活の指導法などを学ぶ						
《成績評価の方法と基準》						
実技試験及び記述試験にて評価を行う。						
《使用教材(教科書)及び参考図書》						
・「柔道整復学・理論編 改訂第6版」 全国柔道整復学校協会・教科書委員会編・南江堂 ・「柔道整復学・実技編 改訂第2版」 全国柔道整復学校協会・教科書委員会編・南江堂 ・「運動療法のための機能解剖学的触診技術 上肢&下肢・体幹 改訂第3版」メジカルビュー社						
《授業外における学習方法》						
教科書及び参考書の本読み、実技の練習						
《履修に当たっての留意点》						
国試に合格するための勉強に留まらず、将来自分のあるべき柔道整復師の姿を思い描きながら授業に臨む						
授業の方法		内 容		使用教材	授業以外での準備学習 の具体的な内容	
第1回	実習形式	授業を通じての到達目標	認定実技試験について理解する。		教科書、参考書による 予習	
		各コマにおける授業予定	オリエンテーション			
第2回	実習形式	授業を通じての到達目標	診察・整復実技、固定実技、軟損の徒手検査実技について理解する。		教科書、参考書による 予習、復習、実技練習	
		各コマにおける授業予定	各実技試験に必要なこと、評価内容について			
第3回	実習形式	授業を通じての到達目標	鎖骨骨折の診察、整復実技について理解、実践できる。		教科書、参考書による 予習、復習、実技練習	
		各コマにおける授業予定	鎖骨骨折の診察、整復実技			
第4回	実習形式	授業を通じての到達目標	鎖骨骨折の診察、整復実技について理解、実践できる。		教科書、参考書による 予習、復習、実技練習	
		各コマにおける授業予定	鎖骨骨折の診察、整復実技			
第5回	実習形式	授業を通じての到達目標	鎖骨骨折の診察、整復実技について理解、実践できる。		教科書、参考書による 予習、復習、実技練習	
		各コマにおける授業予定	鎖骨骨折の診察、整復実技			

授業の方法		内 容		使用教材	授業以外での準備学習 の具体的な内容
第6回	実習形式	授業を通じての到達目標	肩関節前方烏口下脱臼の診察、整復実技について理解、実践できる。		教科書、参考書による予習、復習、実技練習
		各コマにおける授業予定	肩関節前方烏口下脱臼の診察、整復実技		
第7回	実習形式	授業を通じての到達目標	肩関節前方烏口下脱臼の診察、整復実技について理解、実践できる。		教科書、参考書による予習、復習、実技練習
		各コマにおける授業予定	肩関節前方烏口下脱臼の診察、整復実技		
第8回	実習形式	授業を通じての到達目標	肩関節前方烏口下脱臼の診察、整復実技について理解、実践できる。		教科書、参考書による予習、復習、実技練習
		各コマにおける授業予定	肩関節前方烏口下脱臼の診察、整復実技		
第9回	実習形式	授業を通じての到達目標	上腕骨外科頸外転型骨折の診察、整復実技について理解、実践できる。		教科書、参考書による予習、復習、実技練習
		各コマにおける授業予定	上腕骨外科頸外転型骨折の診察、整復実技		
第10回	実習形式	授業を通じての到達目標	上腕骨外科頸外転型骨折の診察、整復実技について理解、実践できる。		教科書、参考書による予習、復習、実技練習
		各コマにおける授業予定	上腕骨外科頸外転型骨折の診察、整復実技		
第11回	実習形式	授業を通じての到達目標	上腕骨外科頸外転型骨折の診察、整復実技について理解、実践できる。		教科書、参考書による予習、復習、実技練習
		各コマにおける授業予定	上腕骨外科頸外転型骨折の診察、整復実技		
第12回	実習形式	授業を通じての到達目標	コーレス骨折の診察、整復実技について理解、実践できる。		教科書、参考書による予習、復習、実技練習
		各コマにおける授業予定	コーレス骨折の診察、整復実技		
第13回	実習形式	授業を通じての到達目標	コーレス骨折の診察、整復実技について理解、実践できる。		教科書、参考書による予習、復習、実技練習
		各コマにおける授業予定	コーレス骨折の診察、整復実技		
第14回	実習形式	授業を通じての到達目標	コーレス骨折の診察、整復実技について理解、実践できる。		教科書、参考書による予習、復習、実技練習
		各コマにおける授業予定	コーレス骨折の診察、整復実技		
第15回	実習形式	授業を通じての到達目標	後期試験対策		教科書、参考書による予習、復習、実技練習
		各コマにおける授業予定	まとめ 試験		

2024 年度 授業計画(シラバス)

学 科		柔道整復スポーツトレーナー		科 目 区 分	専門基礎分野	授業の方法	実習
科 目 名		柔道Ⅰ		必修/選択の別	必修	授業時数(単位数)	30 (2) 時間(単位)
対 象 学 年		2年生		学期及び曜時限	後期	教室名	体育館
担 当 教 員		奥出 一 貴	実務経験と その関連資格	柔道整復師、柔道整復師専科教員資格			
《授業科目における学習内容》							
柔道Ⅰにおいて修得した投げ技を高めるとともに、高度な受け身(背負投、巴投、肩車の受け身)の取得を目標とする。「投の形」の手技、腰技、足技の9種類を受け取りともに身につける。							
《成績評価の方法と基準》							
1 実技試験70% 2 出席20% 3 平常点(グループワーク中の態度発表)10%							
《使用教材(教科書)及び参考図書》							
《授業外における学習方法》							
2021年の東京オリンピックを前に 国際大会 国内大会など中継及びネット配信に興味を持って観戦する。							
《履修に当たっての留意点》							
高度な受け身を習得するとともに 回転運動などを 自分の体調や今までのけがなど考慮し自己管理をして授業に参加する。							
授業の方法		内 容			使用教材		授業以外での準備学習 の具体的な内容
第1回	実習形式	授業を通じての到達目標	投げの形について理解できるようになる。				柔道着の確認
		各コマにおける授業予定	オリエンテーション 投げの形鑑賞				
第2回	実習形式	授業を通じての到達目標	背負い投げの受け身を習得できるようになる。				前回り受身 飛び込みの前回り受身の確認
		各コマにおける授業予定	背負い投げの原理(受の動き)				
第3回	実習形式	授業を通じての到達目標	背負い投げの投げ方における前回り裁きができるようになる。				すり足 前の移動 横の移動 後ろの移動
		各コマにおける授業予定	背負い投げの原理(取の動き)				
第4回	実習形式	授業を通じての到達目標	後ろ回り裁きができるようになる。				投げの形と 実践の投げ技の違いの確認
		各コマにおける授業予定	背負い投げと一本背負い				
第5回	実習形式	授業を通じての到達目標	投げてからの抑え込みと下からの寝技の攻防ができるようになる。				抑え込みの確認 袈裟固め 横四方固め
		各コマにおける授業予定	寝技での背負い投げ、寝技での肩車				

授業の方法		内 容		使用教材	授業以外での準備学習 の具体的な内容
第6回	実習形式	授業を通じての到達目標	巴投げの受け身ができるようになる。		投げの形での 足の運びの確認
		各コマにおける授業予定	巴投げの原理(受の動き)		
第7回	実習形式	授業を通じての到達目標	巴投げで投げられるようになる。		投げの形での 崩しの確認
		各コマにおける授業予定	巴投げの原理(取の動き)		
第8回	実習形式	授業を通じての到達目標	肩車の取の動き方が理解できるようになる。		相手を楽に持ち上げる方法 足の筋肉を使って
		各コマにおける授業予定	肩車の原理(取り動き)		
第9回	実習形式	授業を通じての到達目標	肩車における現在のルールについて理解できるようになる。		寝技のバリエーションを増やしていく
		各コマにおける授業予定	肩車を使った寝技		
第10回	実習形式	授業を通じての到達目標	投げの形の手技ができるようになる。		投げの形での 足の運びの確認
		各コマにおける授業予定	投げの形(取の動き)		
第11回	実習形式	授業を通じての到達目標	受身の動作および立ち方を理解し、できるようになる。		投げの形での 受身の確認
		各コマにおける授業予定	投げの形(受の動き)		
第12回	実習形式	授業を通じての到達目標	試合のルールを理解できるようになる。昇級を目指す。		指導がくる 要素
		各コマにおける授業予定	試合のルールについて 投げの形(手技の受取)		
第13回	実習形式	授業を通じての到達目標	団体戦の礼法ができるようになる。昇級を目指す。		審判を体験
		各コマにおける授業予定	試合の団体戦の礼法について 投げの形(腰技の受取)		
第14回	実習形式	授業を通じての到達目標	トーナメント試合について理解できるようになる。昇級を目指す。		試合運営の確認
		各コマにおける授業予定	トーナメント試合について 投げの形足技の受取		
第15回	実習形式	授業を通じての到達目標	公式試合に出場できる知識を身につけられるようになる。		投げの形受取両方の習得
		各コマにおける授業予定	まとめ 試験		

2024 年度 授業計画(シラバス)

学 科	柔道整復スポーツトレーナー学科		科 目 区 分	専門基礎分野	授業の方法	講義
科 目 名	柔道整復演習Ⅳ		必修/選択の別	必修	授業時数(単位数)	60 (4) 時間(単位)
対 象 学 年	2年		学期及び曜時限	後期	教室名	302教室
担 当 教 員	平林 大輔	実務経験と その関連資格	柔道整復師施術管理者 柔道整復師専科教員			
《授業科目における学習内容》						
研究に必要な基礎知識や研究方法などを学び、指導教員とディスカッションを交えて行う。論文の意義やエビデンスについてを理解した上で研究の進め方、組立て、研究デザイン、データの収集、解析法を学んでいく。						
《成績評価の方法と基準》						
出席及び、課題の提出物、ディスカッションへの参加度を総合的に評価する。						
《使用教材(教科書)及び参考図書》						
配布資料						
《授業外における学習方法》						
授業時間外での情報収集などが必要となるので、図書館を利用して情報を収集出来るようにする。						
《履修に当たっての留意点》						
データの解析には、統計処理が必要となり、また、発表にはスライドの作成技術が必要となる。						
授業の方法		内 容			使用教材	授業以外での準備学習 の具体的な内容
第1回	演習実習形式	授業を通じての到達目標	予備実験の被検者からデータを集める事が出来るようになる。		資料の配布	特記事項無し
		各コマにおける授業予定	予備実験とデータ採取			
第2回	演習実習形式	授業を通じての到達目標	予備実験の被検者からデータを集める事が出来るようになる。		資料の配布	特記事項無し
		各コマにおける授業予定	予備実験とデータ採取			
第3回	演習実習形式	授業を通じての到達目標	予備実験の被検者からデータを集める事が出来るようになる。		資料の配布	特記事項無し
		各コマにおける授業予定	予備実験とデータ採取			
第4回	演習実習形式	授業を通じての到達目標	予備実験の被検者からデータを集める事が出来るようになる。		資料の配布	特記事項無し
		各コマにおける授業予定	予備実験とデータ採取			
第5回	演習実習形式	授業を通じての到達目標	予備実験の被検者からデータを集める事が出来るようになる。		資料の配布	特記事項無し
		各コマにおける授業予定	予備実験とデータ採取			

授業の方法		内 容		使用教材	授業以外での準備学習の具体的な内容
第6回	演習実習形式	授業を通じての到達目標	本実験の被検者を確定し、データを集める事が出来るようになる。	資料の配布	特記事項無し
		各コマにおける授業予定	本実験データ採取		
第7回	演習実習形式	授業を通じての到達目標	本実験の被検者を確定し、データを集める事が出来るようになる。	資料の配布	特記事項無し
		各コマにおける授業予定	本実験データ採取		
第8回	演習実習形式	授業を通じての到達目標	本実験の被検者を確定し、データを集める事が出来るようになる。	資料の配布	特記事項無し
		各コマにおける授業予定	本実験データ採取		
第9回	演習実習形式	授業を通じての到達目標	本実験の被検者を確定し、データを集める事が出来るようになる。	資料の配布	特記事項無し
		各コマにおける授業予定	本実験データ採取		
第10回	演習実習形式	授業を通じての到達目標	本実験の被検者を確定し、データを集める事が出来るようになる。	資料の配布	特記事項無し
		各コマにおける授業予定	本実験データ採取		
第11回	演習実習形式	授業を通じての到達目標	本実験の被検者を確定し、データを集める事が出来るようになる。	資料の配布	特記事項無し
		各コマにおける授業予定	本実験データ採取		
第12回	演習実習形式	授業を通じての到達目標	本実験の被検者を確定し、データを集める事が出来るようになる。	資料の配布	特記事項無し
		各コマにおける授業予定	本実験データ採取		
第13回	演習実習形式	授業を通じての到達目標	本実験の被検者を確定し、データを集める事が出来るようになる。	資料の配布	特記事項無し
		各コマにおける授業予定	本実験データ採取		
第14回	演習実習形式	授業を通じての到達目標	本実験の被検者を確定し、データを集める事が出来るようになる。	資料の配布	特記事項無し
		各コマにおける授業予定	本実験データ採取		
第15回	演習実習形式	授業を通じての到達目標	本実験の被検者を確定し、データを集める事が出来るようになる。	資料の配布	特記事項無し
		各コマにおける授業予定	本実験データ採取		

2024 年度 授業計画(シラバス)

学 科		柔道整復スポーツトレーナー学科		科 目 区 分	専門分野	授業の方法	講義
科 目 名		柔道整復各論Ⅲ		必修/選択の別	必修	授業時数(単位数)	30 (2) 時間(単位)
対 象 学 年		2年生		学期及び曜時限	後期	教室名	302教室
担 当 教 員		松澤 伸也	実務経験と その関連資格	柔道整復師 専科教員資格			
《授業科目における学習内容》							
体幹の骨折・脱臼・打撲・捻挫・挫傷による軟部組織損傷について学ぶ							
《成績評価の方法と基準》							
定期試験100%							
《使用教材(教科書)及び参考図書》							
柔道整復学・理論編 改訂第6版、柔道整復学・実技編 改訂第2版							
《授業外における学習方法》							
教科書に沿って本を読み、配布プリントの復習							
《履修に当たっての留意点》							
基礎となる解剖学を理解すること、本読みを行い教科書の記載内容を理解すること							
授業の方法		内 容			使用教材		授業以外での準備学習 の具体的な内容
第1回	講義形式	授業を通じての到達目標	頭部解剖学の復習、頭蓋骨の骨折(冠骨折)		柔道整復学・理論編 改訂第6版、柔道整復学・実技編改訂第2版	授業範囲本読み予習復習	
		各コマにおける授業予定	講義ガイダンス、頭部の損傷				
第2回	講義形式	授業を通じての到達目標	頭蓋骨の骨折(冠、底骨折)		柔道整復学・理論編 改訂第6版、柔道整復学・実技編改訂第2版	授業範囲本読み予習復習	
		各コマにおける授業予定	頭部の損傷				
第3回	講義形式	授業を通じての到達目標	頭蓋骨の骨折(底、鼻、眼窩骨折)		柔道整復学・理論編 改訂第6版、柔道整復学・実技編改訂第2版	授業範囲本読み予習復習	
		各コマにおける授業予定	頭部の損傷				
第4回	講義形式	授業を通じての到達目標	頭蓋骨の骨折(下顎、頬骨骨折)、顎関節脱臼		柔道整復学・理論編 改訂第6版、柔道整復学・実技編改訂第2版	授業範囲本読み予習復習	
		各コマにおける授業予定	頭部の損傷				
第5回	講義形式	授業を通じての到達目標	顎関節脱臼、頭部の軟部組織損傷(打撲、顎関節症)		柔道整復学・理論編 改訂第6版、柔道整復学・実技編改訂第2版	授業範囲本読み予習復習	
		各コマにおける授業予定	頭部の損傷				

授業の方法		内 容		使用教材	授業以外での準備学習 の具体的な内容
第6回	講義形式	授業を通じての到達目標	頭部の軟部組織損傷(顎関節症、捻挫)	柔道整復学・理論編 改訂第6版、柔道整復学・実技編改訂第2版	授業範囲本読み予習復習
		各コマにおける授業予定	頭部の損傷		
第7回	講義形式	授業を通じての到達目標	頸椎の解剖学の復習、頸椎の骨折(上位・下位頸椎骨折)	柔道整復学・理論編 改訂第6版、柔道整復学・実技編改訂第2版	授業範囲本読み予習復習
		各コマにおける授業予定	頸部の損傷		
第8回	講義形式	授業を通じての到達目標	頸椎の骨折(下位頸椎骨折)、頸椎脱臼、頸部の軟部組織損傷	柔道整復学・理論編 改訂第6版、柔道整復学・実技編改訂第2版	授業範囲本読み予習復習
		各コマにおける授業予定	頸部の損傷		
第9回	講義形式	授業を通じての到達目標	頸部の軟部組織損傷(外傷性頸部症候群、胸郭出口症候群、寝違い)	柔道整復学・理論編 改訂第6版、柔道整復学・実技編改訂第2版	授業範囲本読み予習復習
		各コマにおける授業予定	頸部の損傷		
第10回	講義形式	授業を通じての到達目標	頸部の軟部組織損傷(斜頸、頸椎ヘルニア、頸椎症、後縦靱帯骨化症、頸椎の炎症性病変、外傷性腕神経叢損傷)	柔道整復学・理論編 改訂第6版、柔道整復学・実技編改訂第2版	授業範囲本読み予習復習
		各コマにおける授業予定	頸部の損傷		
第11回	講義形式	授業を通じての到達目標	頸部の軟部組織損傷(分娩麻痺、副神経損傷、長胸神経損傷) 胸・背部の損傷(胸背部の解剖学の復習)、胸部の骨折(肋骨)	柔道整復学・理論編 改訂第6版、柔道整復学・実技編改訂第2版	授業範囲本読み予習復習
		各コマにおける授業予定	頸部の損傷、胸・背部の損傷		
第12回	講義形式	授業を通じての到達目標	胸部の骨折(肋骨骨折、胸骨骨折)、胸椎の骨折、胸椎の脱臼	柔道整復学・理論編 改訂第6版、柔道整復学・実技編改訂第2版	授業範囲本読み予習復習
		各コマにおける授業予定	胸・背部の損傷		
第13回	講義形式	授業を通じての到達目標	胸・背部の軟部組織損傷(胸肋関節、肋間筋、打撲など) 腰部・仙骨部の解剖学の復習	柔道整復学・理論編 改訂第6版、柔道整復学・実技編改訂第2版	授業範囲本読み予習復習
		各コマにおける授業予定	胸・背部の損傷、腰部の損傷		
第14回	講義形式	授業を通じての到達目標	腰椎の骨折、脱臼、軟部組織損傷	柔道整復学・理論編 改訂第6版、柔道整復学・実技編改訂第2版	授業範囲本読み予習復習
		各コマにおける授業予定	腰部の損傷		
第15回	講義形式	授業を通じての到達目標	腰部の軟部組織損傷、まとめ	柔道整復学・理論編 改訂第6版、柔道整復学・実技編改訂第2版	授業範囲本読み予習復習
		各コマにおける授業予定	腰部の損傷、まとめ		

2024 年度 授業計画(シラバス)

学 科	柔道整復スポーツトレーナー学科		科 目 区 分	専門分野	授業の方法	講義
科 目 名	柔道整復学基礎Ⅰ（総合的対策）		必修/選択の別	必修	授業時数(単位数)	30 (1) 時間(単位)
対 象 学 年	2年		学期及び曜時間	後期 水・1限	教室名	302教室
担 当 教 員	井上 晃一	実務経験と その関連資格	接骨院開業経験 柔道整復師免許 柔道整復師専科教員資格			
《授業科目における学習内容》						
柔道整復学・各論Ⅰ 上肢・下肢の復習と対策						
《成績評価の方法と基準》						
筆記試験						
《使用教材(教科書)及び参考図書》						
柔道整復学・理論編 改訂第6版						
《授業外における学習方法》						
教科書の本読み、対策プリントの復習						
《履修に当たっての留意点》						
柔道整復学・各論は国家試験や臨床現場で重要な科目であり、反復的な学習や対策の必要がある。						
授業の方法		内 容		使用教材	授業以外での準備学習 の具体的な内容	
第1回	講義形式	授業を通じての到達目標	鎖骨の損傷について理解することができるようになる。	柔道整復学・理論編改訂第6版 対策プリント	教科書の本読み 対策プリントの復習	
		各コマにおける授業予定	鎖骨の損傷(骨折・脱臼)復習と対策			
第2回	講義形式	授業を通じての到達目標	肩関節部の骨折について理解することができるようになる。	柔道整復学・理論編改訂第6版 対策プリント	教科書の本読み 対策プリントの復習	
		各コマにおける授業予定	肩関節部(骨折)復習と対策			
第3回	講義形式	授業を通じての到達目標	肩関節部・上腕部の骨折について理解することができるようになる。	柔道整復学・理論編改訂第6版 対策プリント	教科書の本読み 対策プリントの復習	
		各コマにおける授業予定	肩関節部・上腕部の損傷(骨折)復習と対策			
第4回	講義形式	授業を通じての到達目標	肩関節部の脱臼について理解することができるようになる。	柔道整復学・理論編改訂第6版 対策プリント	教科書の本読み 対策プリントの復習	
		各コマにおける授業予定	肩関節部(脱臼)復習と対策			
第5回	講義形式	授業を通じての到達目標	上腕骨遠位部の骨折について理解することができるようになる。	柔道整復学・理論編改訂第6版 対策プリント	教科書の本読み 対策プリントの復習	
		各コマにおける授業予定	上腕骨遠位部(骨折)復習と対策			

授業の方法		内 容		使用教材	授業以外での準備学習の具体的な内容
第6回	講義形式	授業を通じての到達目標	前腕近位部の骨折・脱臼について理解することができるようになる。	柔道整復学・理論編改訂第6版 対策プリント	教科書の本読み 対策プリントの復習
		各コマにおける授業予定	前腕部近位部(骨折・脱臼)復習と対策		
第7回	講義形式	授業を通じての到達目標	前腕骨幹部の骨折について理解することができるようになる。	柔道整復学・理論編改訂第6版 対策プリント	教科書の本読み 対策プリントの復習
		各コマにおける授業予定	前腕骨幹部(骨折)復習と対策		
第8回	講義形式	授業を通じての到達目標	手関節部の骨折・脱臼について理解することができるようになる。	柔道整復学・理論編改訂第6版 対策プリント	教科書の本読み 対策プリントの復習
		各コマにおける授業予定	手関節部(骨折・脱臼)復習と対策		
第9回	講義形式	授業を通じての到達目標	手・指部の骨折・脱臼について理解することができるようになる。	柔道整復学・理論編改訂第13版 対策プリント	教科書の本読み 対策プリントの復習
		各コマにおける授業予定	手・指部の損傷(骨折・脱臼)復習と対策		
第10回	講義形式	授業を通じての到達目標	股関節部の損傷について理解することができるようになる。	柔道整復学・理論編改訂第14版 対策プリント	教科書の本読み 対策プリントの復習
		各コマにおける授業予定	股関節部の損傷(大腿近位端骨折・股関節脱臼)復習と対策		
第11回	講義形式	授業を通じての到達目標	大腿部損傷(骨折)・膝関節部損傷(骨折)について理解することができるようになる。	柔道整復学・理論編改訂第15版 対策プリント	教科書の本読み 対策プリントの復習
		各コマにおける授業予定	大腿部損傷(骨折)膝関節部損傷(骨折)復習と対策		
第12回	講義形式	授業を通じての到達目標	膝関節部の損傷(骨折・脱臼)について理解することができるようになる。	柔道整復学・理論編改訂第16版 対策プリント	教科書の本読み 対策プリントの復習
		各コマにおける授業予定	膝関節部の損傷(骨折・脱臼)復習と対策		
第13回	講義形式	授業を通じての到達目標	下腿部の損傷(骨折)について理解することができるようになる。	柔道整復学・理論編改訂第17版 対策プリント	教科書の本読み 対策プリントの復習
		各コマにおける授業予定	下腿部の損傷(骨折)復習と対策		
第14回	講義形式	授業を通じての到達目標	足部の損傷(骨折・脱臼)について理解することができる。	柔道整復学・理論編改訂第18版 対策プリント	教科書の本読み 対策プリントの復習
		各コマにおける授業予定	足部の損傷(骨折・脱臼)復習と対策		
第15回	講義形式	授業を通じての到達目標	足・足趾の損傷(骨折・脱臼)について理解することができるようになる。	柔道整復学・理論編改訂第19版 対策プリント	教科書の本読み 対策プリントの復習
		各コマにおける授業予定	足・足趾の損傷(骨折・脱臼)復習と対策		

2024 年度 授業計画(シラバス)

学 科	柔道整復スポーツトレーナー		科 目 区 分	基礎分野	授業の方法	講義演習
科 目 名	コンピューター		必修/選択の別	必修	授業時数(単位数)	30 (2) 時間(単位)
対 象 学 年	2年生		学期及び曜時限	前期	教室名	pc視聴覚室
担 当 教 員	鈴木 大空	実務経験と その関連資格				
《授業科目における学習内容》						
コンピュータ自体の操作の習熟をはかることはもちろん、ソフトウェア間の連携、コンピュータネットワーク環境の適切な利用 ができることに重点を置いて実施する。これにより、在学中ならびに卒業後の情報処理スキルの向上を図る。						
《成績評価の方法と基準》						
定期試験 70% 提出物 20% 態度・発表 10%						
《使用教材(教科書)及び参考図書》						
FOM出版 わかるとできるMicrosoft Word・Excel・PowerPoint 2010						
《授業外における学習方法》						
自宅にあるPCを使つての復習等。						
《履修に当たっての留意点》						
Microsoft Officeの基本的な操作方法を覚える。						
授業の 方法		内 容			使用教材	授業以外での準備学習 の具体的な内容
第 1 回	講義 演習 形式	授業を 通じての 到達目標	Microsoft Officeとは何か。を理解する		FOM出版 わかるとできる Microsoft Word・ Excel・ PowerPoint 2010	
		各コマに おける 授業予定	ワード、エクセル、パワーポイントの紹介。簡単な操作方法			
第 2 回	講義 演習 形式	授業を 通じての 到達目標	文書作成ソフトを使って基本的な文書作成ができる		FOM出版 わかるとできる Microsoft Word・ Excel・ PowerPoint 2010	
		各コマに おける 授業予定	タイピング練習。ワードの基礎的な操作方法を覚える			
第 3 回	講義 演習 形式	授業を 通じての 到達目標	ビジネス文書を作成できる		FOM出版 わかるとできる Microsoft Word・ Excel・ PowerPoint 2010	
		各コマに おける 授業予定	文書作成、書式設定の方法を覚える			
第 4 回	講義 演習 形式	授業を 通じての 到達目標	グラフィック機能を利用し、表現豊かな文書を作成できる		FOM出版 わかるとできる Microsoft Word・ Excel・ PowerPoint 2010	
		各コマに おける 授業予定	文書内に写真・イラストを挿入する方法を覚える			
第 5 回	講義 演習 形式	授業を 通じての 到達目標	ワードでの表の作成や編集ができる		FOM出版 わかるとできる Microsoft Word・ Excel・ PowerPoint 2010	
		各コマに おける 授業予定	文書内での表の挿入の仕方、編集の仕方を覚える			

授業の方法		内 容		使用教材	授業以外での準備学習 の具体的な内容
第6回	講義 演習形式	授業を通じての到達目標	エクセルの基本操作ができる	FOM出版 わかるとできる Microsoft Word・ Excel・ PowerPoint 2010	
		各コマにおける授業予定	エクセルの画面構成、操作方法を覚える		
第7回	講義 演習形式	授業を通じての到達目標	四則演算、関数、絶対参照といった計算機能を使う事ができる	FOM出版 わかるとできる Microsoft Word・ Excel・ PowerPoint 2010	
		各コマにおける授業予定	エクセルでの表作成、関数を使った計算の方法を覚える		
第8回	講義 演習形式	授業を通じての到達目標	グラフの作成方法を理解し、活用できる	FOM出版 わかるとできる Microsoft Word・ Excel・ PowerPoint 2010	
		各コマにおける授業予定	作成した表から、適切なグラフを選び挿入することができるようになる		
第9回	講義 演習形式	授業を通じての到達目標	データベース機能を理解し、活用できる	FOM出版 わかるとできる Microsoft Word・ Excel・ PowerPoint 2010	
		各コマにおける授業予定	膨大な表から必要な情報を抽出し、抜き出すことができるようになる		
第10回	講義 演習形式	授業を通じての到達目標	エクセル・ワード まとめ練習問題 等	FOM出版 わかるとできる Microsoft Word・ Excel・ PowerPoint 2010	
		各コマにおける授業予定	ワード・エクセルでの操作のまとめ問題集		
第11回	講義 演習形式	授業を通じての到達目標	PowerPointの基本操作ができる グラフィック機能を活用し、表現力豊かなスライドが作成できる	FOM出版 わかるとできる Microsoft Word・ Excel・ PowerPoint 2010	
		各コマにおける授業予定	PowerPointを使ったスライドの作り方、基本的な操作方法を覚える		
第12回	講義 演習形式	授業を通じての到達目標	特殊効果を設定し、魅せるスライドの作り方を練習する	FOM出版 わかるとできる Microsoft Word・ Excel・ PowerPoint 2010	
		各コマにおける授業予定	ページの切り替え設定を利用し、見た目を重視したスライドを作成		
第13回	講義 演習形式	授業を通じての到達目標	スライド作成ができる(課題作成)	FOM出版 わかるとできる Microsoft Word・ Excel・ PowerPoint 2010	
		各コマにおける授業予定	与えられた課題について、自身で調べながらスライドを作成		
第14回	講義 演習形式	授業を通じての到達目標	与えられた課題に沿ってスライド作成、完成まで	FOM出版 わかるとできる Microsoft Word・ Excel・ PowerPoint 2010	
		各コマにおける授業予定	課題作成、プレゼンテーション発表		
第15回	講義 演習形式	授業を通じての到達目標	Microsoft Officeでの操作方法を理解し、実践で使うことができるようになる	FOM出版 わかるとできる Microsoft Word・ Excel・ PowerPoint 2010	
		各コマにおける授業予定	まとめと試験		

2024 年度 授業計画(シラバス)

学 科		柔道整復スポーツトレーナー学科		科 目 区 分	専門分野	授業の方法	実習
科 目 名		整復基礎実技Ⅱ		必修/選択の別	必修	授業時数(単位数)	30 (1) 時間(単位)
対 象 学 年		2年生		学期及び曜時限	後期	教室名	実技室2
担 当 教 員		奥出 一貴	実務経験と その関連資格	柔道整復師、専科教員資格、NSCA-CPT、赤十字救急法指導員 医療法人淳良会 関目病院、橋本スポーツ鍼灸整骨院			
《授業科目における学習内容》							
柔道整復基礎Ⅲ及び、柔道整復各論Ⅰ及びⅡで学んだ下肢の損傷に対する評価法・整復法・固定法についての実技を学ぶ。							
《成績評価の方法と基準》							
試験点数100%にて評価する。							
《使用教材(教科書)及び参考図書》							
柔道整復学 理論編 改訂第6版 ・ 柔道整復学 実技編 改訂第2版 骨関節の機能解剖 配布資料							
《授業外における学習方法》							
教科書及び配布資料をよく読み、特に復習に力を入れること。実技は繰り返し練習をしなければ身につかないため、学生同士での練習が不可欠である。							
《履修に当たっての留意点》							
柔道整復基礎Ⅲ及び、柔道整復各論Ⅰ及びⅡの内容をしっかりと復習しておく必要がある。							
授業の方法		内 容			使用教材	授業以外での準備学習 の具体的な内容	
第1回	講義 演習形式	授業を通じての 到達目標	股関節の機能解剖について理解することができる。		柔道整復学 理論編 改訂第6版 ・ 柔道整復学 実技編 改訂第2版 骨関節の機能解剖	柔道整復基礎Ⅲ及び、 柔道整復各論Ⅰ及びⅡ の内容を復習しておく。	
		各コマにおける 授業予定	股関節の機能解剖				
第2回	講義 演習形式	授業を通じての 到達目標	股関節の損傷に対する復習と評価法、整復・固定法・後療法について理解することができるようになる。		柔道整復学 理論編 改訂第6版 ・ 柔道整復学 実技編 改訂第2版 骨関節の機能解剖	柔道整復基礎Ⅲ及び、 柔道整復各論Ⅰ及びⅡ の内容を復習しておく。	
		各コマにおける 授業予定	股関節の損傷①				
第3回	講義 演習形式	授業を通じての 到達目標	股関節の損傷に対する復習と評価法、整復・固定法・後療法について理解することができるようになる。		柔道整復学 理論編 改訂第6版 ・ 柔道整復学 実技編 改訂第2版 骨関節の機能解剖	柔道整復基礎Ⅲ及び、 柔道整復各論Ⅰ及びⅡ の内容を復習しておく。	
		各コマにおける 授業予定	股関節の損傷②				
第4回	講義 演習形式	授業を通じての 到達目標	股関節の損傷に対する復習と評価法、整復・固定法・後療法について理解することができるようになる。		柔道整復学 理論編 改訂第6版 ・ 柔道整復学 実技編 改訂第2版 骨関節の機能解剖	柔道整復基礎Ⅲ及び、 柔道整復各論Ⅰ及びⅡ の内容を復習しておく。	
		各コマにおける 授業予定	股関節の損傷③				
第5回	講義 演習形式	授業を通じての 到達目標	膝関節の機能解剖について理解することができる。		柔道整復学 理論編 改訂第6版 ・ 柔道整復学 実技編 改訂第2版 骨関節の機能解剖	柔道整復基礎Ⅲ及び、 柔道整復各論Ⅰ及びⅡ の内容を復習しておく。	
		各コマにおける 授業予定	膝関節の機能解剖				

授業の方法		内 容		使用教材	授業以外での準備学習 の具体的な内容
第6回	講義 演習形式	授業を通じての到達目標	膝関節の損傷に対する復習と評価法、整復・固定法・後療法について理解することができるようになる。	柔道整復学 理論編 改訂第6版・柔道整復学 実技編 改訂第2版 骨関節の機能解剖	柔道整復基礎Ⅲ及び、柔道整復各論Ⅰ及びⅡの内容を復習しておく。
		各コマにおける授業予定	膝関節の損傷①		
第7回	講義 演習形式	授業を通じての到達目標	膝関節の損傷に対する復習と評価法、整復・固定法・後療法について理解することができるようになる。	柔道整復学 理論編 改訂第6版・柔道整復学 実技編 改訂第2版 骨関節の機能解剖	柔道整復基礎Ⅲ及び、柔道整復各論Ⅰ及びⅡの内容を復習しておく。
		各コマにおける授業予定	膝関節の損傷②		
第8回	講義 演習形式	授業を通じての到達目標	膝関節の損傷に対する復習と評価法、整復・固定法・後療法について理解することができるようになる。	柔道整復学 理論編 改訂第6版・柔道整復学 実技編 改訂第2版 骨関節の機能解剖	柔道整復基礎Ⅲ及び、柔道整復各論Ⅰ及びⅡの内容を復習しておく。
		各コマにおける授業予定	膝関節の損傷③		
第9回	講義 演習形式	授業を通じての到達目標	膝関節の損傷に対する復習と評価法、整復・固定法・後療法について理解することができるようになる。	柔道整復学 理論編 改訂第6版・柔道整復学 実技編 改訂第2版 骨関節の機能解剖	柔道整復基礎Ⅲ及び、柔道整復各論Ⅰ及びⅡの内容を復習しておく。
		各コマにおける授業予定	膝関節の損傷④		
第10回	講義 演習形式	授業を通じての到達目標	足関節の機能解剖について理解することができる。	柔道整復学 理論編 改訂第6版・柔道整復学 実技編 改訂第2版 骨関節の機能解剖	柔道整復基礎Ⅲ及び、柔道整復各論Ⅰ及びⅡの内容を復習しておく。
		各コマにおける授業予定	足関節の機能解剖		
第11回	講義 演習形式	授業を通じての到達目標	足関節の損傷に対する復習と評価法、整復・固定法・後療法について理解することができるようになる。	柔道整復学 理論編 改訂第6版・柔道整復学 実技編 改訂第2版 骨関節の機能解剖	柔道整復基礎Ⅲ及び、柔道整復各論Ⅰ及びⅡの内容を復習しておく。
		各コマにおける授業予定	足関節の損傷①		
第12回	講義 演習形式	授業を通じての到達目標	足関節の損傷に対する復習と評価法、整復・固定法・後療法について理解することができるようになる。	柔道整復学 理論編 改訂第6版・柔道整復学 実技編 改訂第2版 骨関節の機能解剖	柔道整復基礎Ⅲ及び、柔道整復各論Ⅰ及びⅡの内容を復習しておく。
		各コマにおける授業予定	足関節の損傷②		
第13回	講義 演習形式	授業を通じての到達目標	足関節の損傷に対する復習と評価法、整復・固定法・後療法について理解することができるようになる。	柔道整復学 理論編 改訂第6版・柔道整復学 実技編 改訂第2版 骨関節の機能解剖	柔道整復基礎Ⅲ及び、柔道整復各論Ⅰ及びⅡの内容を復習しておく。
		各コマにおける授業予定	足関節の損傷③		
第14回	講義 演習形式	授業を通じての到達目標	足関節の損傷に対する復習と評価法、整復・固定法・後療法について理解することができるようになる。	柔道整復学 理論編 改訂第6版・柔道整復学 実技編 改訂第2版 骨関節の機能解剖	柔道整復基礎Ⅲ及び、柔道整復各論Ⅰ及びⅡの内容を復習しておく。
		各コマにおける授業予定	足関節の損傷④		
第15回	講義 演習形式	授業を通じての到達目標	後期学習内容の復習を行い理解することができるようになる。	柔道整復学 理論編 改訂第6版・柔道整復学 実技編 改訂第2版 骨関節の機能解剖	柔道整復基礎Ⅲ及び、柔道整復各論Ⅰ及びⅡの内容を復習しておく。
		各コマにおける授業予定	後期まとめ		

2024 年度 授業計画(シラバス)

学 科		柔道整復スポーツトレーナー学科		科 目 区 分	専門分野	授業の方法	実習
科 目 名		整復基礎実技Ⅲ		必修/選択の別	必修	授業時数(単位数)	30 (1) 時間(単位)
対 象 学 年		2年生		学期及び曜時限	後期	教室名	実技室2
担 当 教 員		奥出 一貴	実務経験とその関連資格	柔道整復師、専科教員資格、NSCA-CPT、赤十字救急法指導員 医療法人淳良会 関目病院、橋本スポーツ鍼灸整骨院			
《授業科目における学習内容》							
柔道整復基礎Ⅲ及び、柔道整復各論Ⅰ及びⅡで学んだ下肢の損傷に対する評価法・整復法・固定法についての実技を学ぶ。							
《成績評価の方法と基準》							
試験点数100%にて評価する。							
《使用教材(教科書)及び参考図書》							
柔道整復学 理論編 改訂第6版 ・ 柔道整復学 実技編 改訂第2版 骨関節の機能解剖 配布資料							
《授業外における学習方法》							
教科書及び配布資料をよく読み、特に復習に力を入れること。実技は繰り返し練習をしなければ身につかないため、学生同士での練習が不可欠である。							
《履修に当たっての留意点》							
柔道整復基礎Ⅲ及び、柔道整復各論Ⅰ及びⅡの内容をしっかりと復習しておく必要がある。							
授業の方法		内 容			使用教材		授業以外での準備学習の具体的な内容
第1回	講義 演習形式	授業を通じての到達目標	頸部の機能解剖について理解することができる。		柔道整復学 理論編 改訂第6版 ・ 柔道整復学 実技編 改訂第2版 骨関節の機能解剖	柔道整復基礎Ⅲ及び、柔道整復各論Ⅰ及びⅡの内容を復習しておく。	
		各コマにおける授業予定	頸部の機能解剖①				
第2回	講義 演習形式	授業を通じての到達目標	頸腰部の機能解剖について理解することができる。		柔道整復学 理論編 改訂第6版 ・ 柔道整復学 実技編 改訂第2版 骨関節の機能解剖	柔道整復基礎Ⅲ及び、柔道整復各論Ⅰ及びⅡの内容を復習しておく。	
		各コマにおける授業予定	頸部の機能解剖②				
第3回	講義 演習形式	授業を通じての到達目標	頸部の損傷に対する復習と評価法、整復・固定法・後療法について理解することができるようになる。		柔道整復学 理論編 改訂第6版 ・ 柔道整復学 実技編 改訂第2版 骨関節の機能解剖	柔道整復基礎Ⅲ及び、柔道整復各論Ⅰ及びⅡの内容を復習しておく。	
		各コマにおける授業予定	頸部の損傷①				
第4回	講義 演習形式	授業を通じての到達目標	頸部の損傷に対する復習と評価法、整復・固定法・後療法について理解することができるようになる。		柔道整復学 理論編 改訂第6版 ・ 柔道整復学 実技編 改訂第2版 骨関節の機能解剖	柔道整復基礎Ⅲ及び、柔道整復各論Ⅰ及びⅡの内容を復習しておく。	
		各コマにおける授業予定	頸部の損傷②				
第5回	講義 演習形式	授業を通じての到達目標	頸部の損傷に対する復習と評価法、整復・固定法・後療法について理解することができるようになる。		柔道整復学 理論編 改訂第6版 ・ 柔道整復学 実技編 改訂第2版 骨関節の機能解剖	柔道整復基礎Ⅲ及び、柔道整復各論Ⅰ及びⅡの内容を復習しておく。	
		各コマにおける授業予定	頸部の損傷③				

授業の方法		内 容		使用教材	授業以外での準備学習 の具体的な内容
第6回	講義 演習形式	授業を通じての 到達目標	頸部の損傷に対する復習と評価法、整復・固定法・後療法について理解することができるようになる。	柔道整復学 理論編 改訂第6版・柔道整復学 実技編 改訂第2版 骨関節の機能解剖	柔道整復基礎Ⅲ及び、 柔道整復各論Ⅰ及びⅡの内容を復習しておく。
		各コマにおける 授業予定	頸部の損傷④		
第7回	講義 演習形式	授業を通じての 到達目標	頸部の損傷に対する復習と評価法、整復・固定法・後療法について理解することができるようになる。	柔道整復学 理論編 改訂第6版・柔道整復学 実技編 改訂第2版 骨関節の機能解剖	柔道整復基礎Ⅲ及び、 柔道整復各論Ⅰ及びⅡの内容を復習しておく。
		各コマにおける 授業予定	頸部の損傷⑤		
第8回	講義 演習形式	授業を通じての 到達目標	胸腰部の機能解剖について理解することができる。	柔道整復学 理論編 改訂第6版・柔道整復学 実技編 改訂第2版 骨関節の機能解剖	柔道整復基礎Ⅲ及び、 柔道整復各論Ⅰ及びⅡの内容を復習しておく。
		各コマにおける 授業予定	胸腰部の機能解剖①		
第9回	講義 演習形式	授業を通じての 到達目標	胸腰部の機能解剖について理解することができる。	柔道整復学 理論編 改訂第6版・柔道整復学 実技編 改訂第2版 骨関節の機能解剖	柔道整復基礎Ⅲ及び、 柔道整復各論Ⅰ及びⅡの内容を復習しておく。
		各コマにおける 授業予定	胸腰部の機能解剖②		
第10回	講義 演習形式	授業を通じての 到達目標	胸腰部の損傷に対する復習と評価法、整復・固定法・後療法について理解することができるようになる。	柔道整復学 理論編 改訂第6版・柔道整復学 実技編 改訂第2版 骨関節の機能解剖	柔道整復基礎Ⅲ及び、 柔道整復各論Ⅰ及びⅡの内容を復習しておく。
		各コマにおける 授業予定	胸腰部の損傷①		
第11回	講義 演習形式	授業を通じての 到達目標	胸腰部の損傷に対する復習と評価法、整復・固定法・後療法について理解することができるようになる。	柔道整復学 理論編 改訂第6版・柔道整復学 実技編 改訂第2版 骨関節の機能解剖	柔道整復基礎Ⅲ及び、 柔道整復各論Ⅰ及びⅡの内容を復習しておく。
		各コマにおける 授業予定	胸腰部の損傷②		
第12回	講義 演習形式	授業を通じての 到達目標	胸腰部の損傷に対する復習と評価法、整復・固定法・後療法について理解することができるようになる。	柔道整復学 理論編 改訂第6版・柔道整復学 実技編 改訂第2版 骨関節の機能解剖	柔道整復基礎Ⅲ及び、 柔道整復各論Ⅰ及びⅡの内容を復習しておく。
		各コマにおける 授業予定	胸腰部の損傷③		
第13回	講義 演習形式	授業を通じての 到達目標	胸腰部の損傷に対する復習と評価法、整復・固定法・後療法について理解することができるようになる。	柔道整復学 理論編 改訂第6版・柔道整復学 実技編 改訂第2版 骨関節の機能解剖	柔道整復基礎Ⅲ及び、 柔道整復各論Ⅰ及びⅡの内容を復習しておく。
		各コマにおける 授業予定	胸腰部の損傷④		
第14回	講義 演習形式	授業を通じての 到達目標	胸腰部の損傷に対する復習と評価法、整復・固定法・後療法について理解することができるようになる。	柔道整復学 理論編 改訂第6版・柔道整復学 実技編 改訂第2版 骨関節の機能解剖	柔道整復基礎Ⅲ及び、 柔道整復各論Ⅰ及びⅡの内容を復習しておく。
		各コマにおける 授業予定	胸腰部の損傷⑤		
第15回	講義 演習形式	授業を通じての 到達目標	後期学習内容の復習を行い理解することができるようになる。	柔道整復学 理論編 改訂第6版・柔道整復学 実技編 改訂第2版 骨関節の機能解剖	柔道整復基礎Ⅲ及び、 柔道整復各論Ⅰ及びⅡの内容を復習しておく。
		各コマにおける 授業予定	後期まとめ		

2024 年度 授業計画(シラバス)

学 科		柔道整復スポーツトレーナー		科 目 区 分	専門基礎分野	授業の方法	講義
科 目 名		病理学		必修/選択の別	必修	授業時数(単位数)	30 (2) 時間(単位)
対 象 学 年		2年生		学期及び曜時限	後期	教室名	302室
担 当 教 員		新庄 文明	実務経験と その関連資格	前長崎大学大学院教授(公衆衛生学)、ロンドン大学キングスカレッジ客員助教授、 元大阪大学医学部講師(社会系医学)、医学博士、歯科医師			
《授業科目における学習内容》							
病理学は基礎医学を構成する学問の一分野とされているが、病気の原因、発症、進展ならびに患者に対する影響などを明 らかにする学問で、基礎医学の知識を基礎として臨床医学に科学的根拠を与える土台となる、基本的な生命科学である。							
《成績評価の方法と基準》							
定期試験 100%							
《使用教材(教科書)及び参考図書》							
全国柔道整復学校協会監修 『病理学概論』 改訂第3版(医歯薬出版)							
《授業外における学習方法》							
これまでの基礎医学、とりわけ解剖学や生理学の知識が、病理学を学ぶにあたって不可欠であるので、その復習を兼ね、従来の学習内容を整理、理解しておくことが必須である。							
《履修に当たっての留意点》							
臨床的に表れる疾病の症状を、身体の臓器や組織、ならびに細胞に生じている変化や変性との関連で、科学的に理解し、総合的に判断できる力を身に着ける。							
授業の方法			内 容			使用教材	授業以外での準備学習 の具体的な内容
第1回	講義形式	授業を通じての到達目標	病理学の方法と疾病の原因の概要を理解する			教科書『病理学概論』および配布する補助資料	配布資料のうち学習小テストの内容を復習・確認する。
		各コマにおける授業予定	病理学の方法・病因総論				
第2回	講義形式	授業を通じての到達目標	細胞の障害、組織の変性、代謝障害による疾病のしくみのしくみを理解する			教科書『病理学概論』および配布する補助資料	配布資料のうち学習小テストの内容を復習・確認する。
		各コマにおける授業予定	細胞と組織の障害Ⅰ 退行性病変と代謝障害				
第3回	講義形式	授業を通じての到達目標	細胞の老化・死と生体の死のしくみを理解する			教科書『病理学概論』および配布する補助資料	
		各コマにおける授業予定	細胞と組織の障害Ⅱ 老化・細胞の死と生体の死				
第4回	講義形式	授業を通じての到達目標	局所の循環障害:充血、うっ血、出血ならびに血栓、塞栓そして梗塞のしくみを理解する			教科書『病理学概論』および配布する補助資料	配布資料のうち学習小テストの内容を復習・確認する。
		各コマにおける授業予定	循環障害Ⅰ 充血・出血、虚血性疾患				
第5回	講義形式	授業を通じての到達目標	全身の循環障害:浮腫、脱水、高血圧の影響を理解する			教科書『病理学概論』および配布する補助資料	配布資料のうち学習小テストの内容を復習・確認する。
		各コマにおける授業予定	循環障害Ⅱ 浮腫、脱水、高血圧				
授業の方法			内 容			使用教材	授業以外での準備学習 の具体的な内容

第6回	講義形式	授業を通じての到達目標	細胞と組織の進行性病変のしくみ、治癒と移植における細胞と組織の適応を理解する	教科書『病理学概論』および配布する補助資料	配布資料のうち学習小テストの内容を復習・確認する。
		各コマにおける授業予定	進行性病変と創傷の治癒		
第7回	講義形式	授業を通じての到達目標	炎症の原因と組織の変化、経過と形態について理解する	教科書『病理学概論』および配布する補助資料	配布資料のうち学習小テストの内容を復習・確認する。
		各コマにおける授業予定	炎症と免疫 I 炎症の原因と分類		
第8回	講義形式	授業を通じての到達目標	免疫のしくみと免疫不全の病態、自己免疫疾患とアレルギーの分類としくみを理解する	教科書『病理学概論』および配布する補助資料	配布資料のうち学習小テストの内容を復習・確認する。
		各コマにおける授業予定	炎症と免疫 II 免疫とアレルギー		
第9回	講義形式	授業を通じての到達目標	腫瘍の定義、その発育段階、局所および全身への影響について理解する	教科書『病理学概論』および配布する補助資料	配布資料のうち学習小テストの内容を復習・確認する。
		各コマにおける授業予定	腫瘍とその生体への影響		
第10回	講義形式	授業を通じての到達目標	悪性腫瘍の外因と内因、その診断と治療について理解する	教科書『病理学概論』および配布する補助資料	配布資料のうち学習小テストの内容を復習・確認する。
		各コマにおける授業予定	発癌の原因		
第11回	講義形式	授業を通じての到達目標	良性腫瘍と悪性腫瘍、主要な癌とその部位について理解する	教科書『病理学概論』および配布する補助資料	配布資料のうち学習小テストの内容を復習・確認する。
		各コマにおける授業予定	腫瘍の分類		
第12回	講義形式	授業を通じての到達目標	先天性異常の原因と主な疾患、胎児への環境的影響と奇形の種類について理解する	教科書『病理学概論』および配布する補助資料	配布資料のうち学習小テストの内容を復習・確認する。
		各コマにおける授業予定	先天性異常と奇形		
第13回	講義形式	授業を通じての到達目標	疾病の背景としての素因、遺伝や免疫、栄養障害、外因としての環境要因や感染を理解する	教科書『病理学概論』および配布する補助資料	配布資料のうち学習小テストの内容を復習・確認する。
		各コマにおける授業予定	病因各論：内因、外因と栄養障害		
第14回	講義形式	授業を通じての到達目標	骨髄炎・関節炎、非感染性の軟部および骨疾患の病理、動・静脈の疾患、神経の麻痺や障害を理解する。	教科書『病理学概論』および配布する補助資料	配布資料のうち学習小テストの内容を復習・確認する。
		各コマにおける授業予定	運動器の病理		
第15回	講義形式	授業を通じての到達目標	これまでの課題を整理し、理解度を確認する	教科書『病理学概論』および配布する補助資料	配布資料のうち学習小テストの内容を復習・確認する。
		各コマにおける授業予定	まとめ		

2024 年度 授業計画(シラバス)

学 科		柔道整復スポーツトレーナー		科 目 区 分	専門分野	授業の方法	実習演習
科 目 名		臨床実習Ⅰ		必修/選択の別	必修	授業時数(単位数)	45 (1) 時間(単位)
対 象 学 年		2年		学期及び曜時限	後期 金曜日	教室名	外部実習先
担 当 教 員		柴崎 清志	実務経験と その関連資格	鍼灸整骨院開業・大阪ハイテク附属整骨院 柔道整復師免許 柔道整復師専科教員免許			
《授業科目における学習内容》							
臨床実習の目的と意義。 オリエンテーションにて実習の心構え、容姿、注意点等の説明。 外部施設での見学実習							
《成績評価の方法と基準》							
レポート提出・態度と容姿、参加度を総合的に判断する。(実習指導調整者、科目担当者)							
《使用教材(教科書)及び参考図書》							
公益社団法人全国柔道整復学校協会 臨床実習ガイドライン							
《授業外における学習方法》							
臨床における実践的能力及び保険の仕組みに関する知識。患者との適切な対応、施術者になるための責任と自覚。 医療人としての倫理やマナー、容姿。多種職連携の重要性。							
《履修に当たっての留意点》							
臨床実習現場にて、美作市スポーツ医療看護専門学校の学生としてふさわしい容姿や受け答えのできる人材。							
授業の 方法		内 容			使用教材	授業以外での準備学習 の具体的な内容	
第 1 回	演 習 実 習 形 式	授業を 通じての 到達目標			公益社団法人全 国柔道整復学校 協会 臨床実習 ガイドライン		
		各コマに おける 授業予定	オリエンテーション(臨床実習資料の説明)				
第 2 回	演 習 実 習 形 式	授業を 通じての 到達目標			公益社団法人全 国柔道整復学校 協会 臨床実習 ガイドライン		
		各コマに おける 授業予定	オリエンテーション(臨床実習資料の説明)				
第 3 回	演 習 実 習 形 式	授業を 通じての 到達目標					
		各コマに おける 授業予定	大谷接骨院たつの院				
第 4 回	演 習 実 習 形 式	授業を 通じての 到達目標					
		各コマに おける 授業予定	大谷接骨院たつの院				
第 5 回	演 習 実 習 形 式	授業を 通じての 到達目標					
		各コマに おける 授業予定	大谷接骨院たつの院				

授業の方法		内 容		使用教材	授業以外での準備学習 の具体的な内容
第6回	演習実習形式	授業を通じての到達目標			
		各コマにおける授業予定	大谷接骨院たつの院		
第7回	演習実習形式	授業を通じての到達目標			
		各コマにおける授業予定	大谷接骨院たつの院		
第8回	演習実習形式	授業を通じての到達目標			
		各コマにおける授業予定	大谷接骨院たつの院		
第9回	演習実習形式	授業を通じての到達目標			
		各コマにおける授業予定	美作名倉堂接骨院		
第10回	演習実習形式	授業を通じての到達目標			
		各コマにおける授業予定	美作名倉堂接骨院		
第11回	演習実習形式	授業を通じての到達目標			
		各コマにおける授業予定	美作名倉堂接骨院		
第12回	演習実習形式	授業を通じての到達目標			
		各コマにおける授業予定	美作名倉堂接骨院		
第13回	演習実習形式	授業を通じての到達目標			
		各コマにおける授業予定	美作名倉堂接骨院		
第14回	演習実習形式	授業を通じての到達目標			
		各コマにおける授業予定	美作名倉堂接骨院		
第15回	演習実習形式	授業を通じての到達目標			
		各コマにおける授業予定	原医院		

2024 年度 授業計画(シラバス)

学 科		柔道整復スポーツトレーナー		科 目 区 分	専門分野	授業の方法	講義
科 目 名		臨床柔道整復学・各論Ⅲ		必修/選択の別	必修	授業時数(単位数)	30 (2) 時間(単位)
対 象 学 年		2年生		学期及び曜時限	後期	教室名	302教室
担 当 教 員		松澤 伸也	実務経験と その関連資格	柔道整復師、柔道整復専科教員免許			
《授業科目における学習内容》							
柔道整復理論編の上肢下肢の軟部損傷について学ぶ							
《成績評価の方法と基準》							
定期試験:100%							
《使用教材(教科書)及び参考図書》							
柔道整復学・理論編 改訂第6版 全国柔道整復学校協会・教科書委員会編・南江堂 柔道整復学・実技編 改訂第2版 全国柔道整復学校協会・教科書委員会編・南江堂 解剖学改訂第2版 配布プリント							
《授業外における学習方法》							
次回の授業範囲の本読みをする。授業の復習として授業範囲の本を再度読み込み配布プリントを確認、内容の理解を深める。							
《履修に当たっての留意点》							
解剖学の筋骨格系を理解しておくこと							
授業の方法		内 容			使用教材	授業以外での準備学習 の具体的な内容	
第1回	講義形式	授業を通じての到達目標	膝の軟部組織損傷について理解する		柔道整復師学理論編改定版6版 解剖学改訂第2版	次回の授業範囲の本読みをする。復習として授業範囲の本を再度読み込み配布プリントを確認	
		各コマにおける授業予定	膝周囲の機能解剖、損傷について学ぶ				
第2回	講義形式	授業を通じての到達目標	膝の軟部組織損傷について理解する		柔道整復師学理論編改定版6版 解剖学改訂第2版	次回の授業範囲の本読みをする。復習として授業範囲の本を再度読み込み配布プリントを確認	
		各コマにおける授業予定	膝周囲の機能解剖、損傷について学ぶ。小テスト				
第3回	講義形式	授業を通じての到達目標	前腕部の軟部組織損傷、末梢神経障害について理解する		柔道整復師学理論編改定版6版 解剖学改訂第2版	次回の授業範囲の本読みをする。復習として授業範囲の本を再度読み込み配布プリントを確認	
		各コマにおける授業予定	前腕部の神経の走行と理解するとともに、損傷について学ぶ、小テスト				
第4回	講義形式	授業を通じての到達目標	前腕部の軟部組織損傷、末梢神経障害について理解する		柔道整復師学理論編改定版6版 解剖学改訂第2版	次回の授業範囲の本読みをする。復習として授業範囲の本を再度読み込み配布プリントを確認	
		各コマにおける授業予定	前腕部の神経の走行と理解するとともに、損傷について学ぶ、小テスト				
第5回	講義形式	授業を通じての到達目標	足部の機能解剖、損傷について理解する		柔道整復師学理論編改定版6版 解剖学改訂第2版	次回の授業範囲の本読みをする。復習として授業範囲の本を再度読み込み配布プリントを確認	
		各コマにおける授業予定	足関節部の軟部組織損傷について学ぶ。足関節捻挫				

授業の方法		内 容		使用教材	授業以外での準備学習 の具体的な内容
第6回	講義形式	授業を通じての到達目標	足部の機能解剖、損傷について理解する	柔道整復師学理論編改定版6版 解剖学改訂第2版	次回の授業範囲の本読みをする。復習として授業範囲の本を再度読み込み配布プリントを確認
		各コマにおける授業予定	足関節捻挫の類症鑑別、注意すべき疾患		
第7回	講義形式	授業を通じての到達目標	足根部の軟部組織損傷について理解する	柔道整復師学理論編改定版6版 解剖学改訂第2版	次回の授業範囲の本読みをする。復習として授業範囲の本を再度読み込み配布プリントを確認
		各コマにおける授業予定	横足根関節損傷、足根中足損傷		
第8回	講義形式	授業を通じての到達目標	足根部の軟部組織損傷について理解する、足・足趾の軟部組織損傷について理解する	柔道整復師学理論編改定版6版 解剖学改訂第2版	次回の授業範囲の本読みをする。復習として授業範囲の本を再度読み込み配布プリントを確認
		各コマにおける授業予定	偏平足障害、中足部から後足部の有痛性疾患		
第9回	講義形式	授業を通じての到達目標	足・足趾の軟部組織損傷について理解する	柔道整復師学理論編改定版6版 解剖学改訂第2版	次回の授業範囲の本読みをする。復習として授業範囲の本を再度読み込み配布プリントを確認
		各コマにおける授業予定	前足部の有痛性疾患		
第10回	講義形式	授業を通じての到達目標	足・足趾の軟部組織損傷について理解する	柔道整復師学理論編改定版6版 解剖学改訂第2版	次回の授業範囲の本読みをする。復習として授業範囲の本を再度読み込み配布プリントを確認
		各コマにおける授業予定	注意すべき疾患		
第11回	講義形式	授業を通じての到達目標	手関節部の軟部組織損傷について理解する	柔道整復師学理論編改定版6版 解剖学改訂第2版	次回の授業範囲の本読みをする。復習として授業範囲の本を再度読み込み配布プリントを確認
		各コマにおける授業予定	TFCC損傷、ドケルバン病 小テスト		
第12回	講義形式	授業を通じての到達目標	手関節部の軟部組織損傷について理解する	柔道整復師学理論編改定版6版 解剖学改訂第2版	次回の授業範囲の本読みをする。復習として授業範囲の本を再度読み込み配布プリントを確認
		各コマにおける授業予定	手根管症候群、ギヨン管症候群		
第13回	講義形式	授業を通じての到達目標	手関節部の軟部組織損傷について理解する	柔道整復師学理論編改定版6版 解剖学改訂第2版	次回の授業範囲の本読みをする。復習として授業範囲の本を再度読み込み配布プリントを確認
		各コマにおける授業予定	キーンベック病、マーデルング変形		
第14回	講義形式	授業を通じての到達目標	苦手なポイント等理解する	柔道整復師学理論編改定版6版 解剖学改訂第2版	次回の授業範囲の本読みをする。復習として授業範囲の本を再度読み込み配布プリントを確認
		各コマにおける授業予定	まとめ、小テスト小テスト		
第15回	講義形式	授業を通じての到達目標	苦手なポイント等理解する	柔道整復師学理論編改定版6版 解剖学改訂第2版	次回の授業範囲の本読みをする。復習として授業範囲の本を再度読み込み配布プリントを確認
		各コマにおける授業予定	まとめ、小テスト		